

日 本 国 特 許 庁

JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 7月 3日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-205560

出 願 人

applicant(s):

株式会社日立製作所

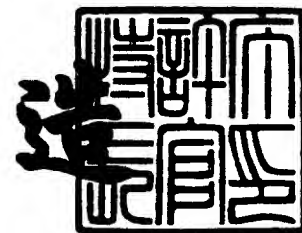
CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

USSN 09/895,078
MATTINGLY, STANGER, MALUR + BRUNDIDGE, P.C.
(703) 684-1120
DKT: ASA-1012

2001年 8月17日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3072532

BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 K00002741

【提出日】 平成12年 7月 3日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 3/14

【請求項の数】 11

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市幸区鹿島田 8 9 0 番地 株式会社日立製作所 ビジネスソリューション開発本部内

 【氏名】 土山 千佳子

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都江東区新砂一丁目 6 番 2 7 号 株式会社日立製作所 公共システム事業部内

 【氏名】 豊島 久

【特許出願人】

 【識別番号】 000005108

 【氏名又は名称】 株式会社日立製作所

【代理人】

 【識別番号】 100075096

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 作田 康夫

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 013088

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データの表示方法及びシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

データが埋め込まれており、前記データの内容を象徴するような要素をもち、信頼性確認手段や表示制御手段を備えたマルチメディアデータを用いて、前記マルチメディアデータ、あるいは前記データの信頼性の確認をし、前記マルチメディアデータの表示、あるいは前記データ内容の表示を制御することを特徴とするデータの表示方法。

【請求項 2】

請求項 1 の表示方法であって、データを埋め込む方法として、電子透かしを用いることを特徴とするデータの表示方法

【請求項 3】

請求項 1 の表示方法であって、データの信頼性を確認する方法として、公開鍵の確認、または公開鍵により復号化された情報と埋め込まれたデータとの確認、または埋め込まれた有効期限情報の確認などを行うことを特徴とするデータの表示方法

【請求項 4】

請求項 1、または請求項 2、または請求項 3 の表示方法であって、情報閲覧者は、情報開示者が開示したいデータ及び前記データの詳細情報や関連情報の所在情報が埋められているマルチメディアデータを用いて、前記データの詳細情報や関連情報を閲覧したり、入手したりことを特徴とするデータの表示方法。

【請求項 5】

開示したい情報をもつ少なくとも 1 つのクライアント端末と、前記情報の内容を象徴するような要素をもつマルチメディアデータを管理する少なくとも 1 つの管理サーバと、前記マルチメディアデータを公開する少なくとも 1 つの WWW サ

ーバと、前記マルチメディアデータを閲覧する少なくとも1つのクライアント端末とがあり、

前記管理サーバは、前記開示したい情報をもつクライアント端末からの要求を受けた場合に、前記開示したい情報と電子署名を前記マルチメディアデータに埋め込む手段と、前記マルチメディアデータに公開鍵を添付して前記WWWサーバに送付する手段を備え、

前記WWWサーバは、前記マルチメディアデータをWebページに貼付し、該マルチメディアデータ付きのWebページを送信する手段を備え、

前記クライアント端末は、前記管理サーバから該管理サーバ公開鍵と該マルチメディアデータ参照に必要なプログラムを入手して格納する手段と、前記WWWサーバから前記マルチメディアデータ付きのWebページを入手する手段と、前記マルチメディアデータに添付された公開鍵と前記管理サーバから入手して格納した公開鍵とを照合する手段と、前記照合が合致しない場合は、前記マルチメディアデータを表示しないようにする、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込まれた情報を表示しないようにする手段と、前記照合が合致した場合は、前記マルチメディアデータを表示する、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込まれた情報を表示する手段と

を備えていることを特徴とするデータ表示システム。

【請求項6】

情報を閲覧する少なくとも1つのクライアント端末があり、

前記クライアント端末は、閲覧したい情報と、前記閲覧したい情報の表示条件を、前記閲覧したい情報を象徴する要素をもつマルチメディアデータに埋め込む手段、前記表示条件が合致しない場合は、前記マルチメディアデータを表示しない、あるいは前記閲覧したい情報の内容を表示しないようにする手段と、前記表示条件が合致した場合は、前記マルチメディアデータを表示する、あるいは前記閲覧したい情報内容を表示する手段と

を備えていることを特徴とするデータ表示システム。

【請求項7】

請求項3または請求項4のデータ表示システムであって、

マルチメディアデータに埋め込んだ情報と公開鍵で復号化した情報とを照合して、合致しなかった場合は、前記マルチメディアデータを表示しないようにする、あるいは前記マルチメディアデータデザインを変形する、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示しないようにし、合致した場合は前記マルチメディアデータを表示する、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示することを特徴とするデータ表示システム。

【請求項 8】

請求項 3 または請求項 4 のデータ表示システムであって、

マルチメディアデータに埋め込んだ情報の有効期限情報とクライアント端末の時計情報とを照合して、有効期間外であった場合は前記マルチメディアデータを表示しないようにする、あるいは前記マルチメディアデータデザインを変形する、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示しないようにし、有効期間内であった場合は前記マルチメディアデータを表示する、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示することを特徴とするデータ表示システム。

【請求項 9】

請求項 3 または請求項 4 のデータ表示システムであって、

情報閲覧者が、マルチメディアデータに埋め込まれた所在情報をもとに、詳細情報や関連情報を入手できるような手段を備えた前記マルチメディアデータを用いて、情報開示者が情報の開示・伝達を行うことを特徴とするデータ表示システム。

【請求項 10】

請求項 3 または請求項 4 のデータ表示システムであって、

マルチメディアデータに埋め込んだ情報のアクセス制御条件に応じて、埋め込んだ情報の表示を制御するために、前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示するために必要なプログラムの配布を制限する、あるいは、アクセス条件を前記マルチメディアデータに埋め込み、前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示するために必要なプログラムに、アクセス条件を満たすかどうかを判断するための情報閲覧者の属性情報を持たせ、前記マルチメディアデータに埋

め込んだアクセス条件と情報閲覧者の属性情報とを照合し、合致しない場合は前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示しないようにし、合致した場合は前記マルチメディアデータに埋め込んだ情報を表示することを特徴とするデータ表示システム。

【請求項 1 1】

情報を配信する少なくとも 1 つの情報配信局が、前記情報の内容を象徴するような要素をもち、信頼性確認手段や表示制御手段を備えたマルチメディアデータを用いて、前記マルチメディアデータに埋め込まれた情報、あるいは前記マルチメディアデータの信頼性確認処理を行った後、情報を閲覧する少なくとも 1 つの情報処理端末に、前記マルチメディアデータを配信し、前記情報処理端末は、前記マルチメディアデータ、あるいは前記マルチメディアデータに埋め込まれた情報を表示することを特徴とするデータ表示システム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、データの表示技術に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

近年、インターネットのようなネットワークを使って、複数のユーザーに情報を開示・伝達する手段として World Wide Web (WWW) サーバプログラムとブラウザシステムとを用いる WWW システムが普及している。特に、最近では、WWW システムを単なる情報伝達手段としてだけでなく、ビジネスに利用しようという動きが顕著である。たとえば、WWW システムにより商品情報を公開する、いわゆる電子商取引システムなどはそのビジネス利用の代表例である。

【0 0 0 3】

このような動きの中、開示・伝達する情報の確からしさをネットワーク上で確認できる技術が重要になってきている。例えば、弊社が出願した特開平 11-239129 (以下、公知例 1 と称す) では、情報を開示・伝達したい者 (以下、情報開

示者とも称する)が、電子透かし技術により、真正性確認や有効期限確認等の手段を備えたマーク等のマルチメディアデータを、開示・伝達したい情報に付加し、ユーザー(以下、情報閲覧者とも称する)は該マークを利用して該情報の真正性等を確認することを特徴とする、情報の認証方法を説明している。

【0004】

また、開示している商品情報等を、より多くの情報閲覧者に閲覧してもらうための工夫も重要である。商品タイトル等を表示した画像で、商品情報を開示しているサイトにリンクを張ったもの(バナー)を、ポータルサイト等の他サイト(以下、情報表示者とも称する)に掲載する、「バナー広告」が普及している。一般的に「バナー広告」は、旗(バナー)のようなイメージを、ネット広告を掲載するオンライン媒体のページに貼り付けるもので、クリックしたユーザを特定のサイトに呼び込むしかけとなっている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

公知例1の方法は、開示・伝達したい情報を表示した上で、その情報に真正性確認手段を備えたマーク等を貼付するものである。よって、情報開示者が自らのサイトで情報を表示するだけでなく、より多くの情報閲覧者に情報を見ってもらうために、ポータルサイトや有識者サイトなどの多数の情報表示者にも情報を表示してもらう場合、情報表示者側でスペースの確保やレイアウト調整を行う必要がある。また、この方法では、情報表示者側において、有効期限や情報閲覧者のアクセス権等に対応して情報の表示を制御するためには、情報表示者が期限切れのチェックやアクセス管理のためのパスワード設定等をする必要があるので、情報表示者側にかなり運用負荷がかかるといえる。

【0006】

一方、「バナー広告」では、情報利用者はバナー広告をクリックして他のサイトに「寄り道」することをいやがる、終了したキャンペーンの広告がまだネット上で流れている、などの問題があり、利便性や信頼性の向上が課題となっている。つまり、公知例1の方法と従来の「バナー広告」を単純に組み合わせて、バナー広告のリンクを、情報表示者が公知例1の方法で開示しているサイトに張るだけ

では、情報表示者側のスペース確保の課題は解決するが、情報閲覧者の利便性の課題、情報表示者の情報表示の制御に関わる運用上の課題などは解決しないといえる。

【0007】

本発明の目的は、データの信頼性の高いデータの表示方法及びシステムを提供することである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明は、データが埋め込まれており、前記データを象徴するような要素をもち、信頼性確認手段や表示制御手段を備えたマルチメディアデータを用いて、前記マルチメディアデータや前記データの信頼性を確認し、前記マルチメディアデータや前記データ内容の表示を制御することを特徴とする、データの表示方法を提供する。ここで、信頼性確認手段とは、真正性の確認、有効期限の確認、改ざんの有無の確認などを行う手段を指すものとする。

【0009】

つまり、本発明では、情報開示者、情報表示者、情報閲覧者が存在した時、情報開示者、情報表示者、情報閲覧者の3者が信頼する管理者によって管理されていて、情報開示者が開示・伝達したい情報（第1のマルチメディアデータとも称する）が埋め込まれており、第1のマルチメディアデータの内容を象徴するような要素をもち、視覚、聴覚で確認できる性質や真正性確認手段を備えたマルチメディアデータ（第2のマルチメディアデータとも称する）を、情報表示者が表示し、情報閲覧者は第2のマルチメディアデータが真正であるかどうかを確認するとともに、第1のマルチメディアデータの真正性も確認し、その内容を閲覧できることを特徴とする。

【0010】

具体的には、本発明では、商品名やサービス名など、情報開示者が開示したい情報を象徴するようなタイトルやキーワードを含んだデザインで、真正性確認手段を備えたマークと呼ぶ画像データに、開示する情報そのもの、あるいはその概要情報を埋め込んだもの（以下、パッケージマークとも称す）を、検索サイトや

ニュースサイトなどの、ひとつまたは複数の情報表示者のサイトで表示し、情報閲覧者は、該パッケージマークが確かに信頼できるパッケージマーク管理者によるものであるという真正性を確認するとともに、パッケージマークに埋め込まれた情報が確かに情報開示者によるものであることを確認でき、かつ閲覧中のサイトから情報開示者サイトに寄り道することなく、通信負荷なしに該パッケージマークに埋め込まれた情報を閲覧することができるので、情報開示者は、開示・伝達したい情報を、より多くの情報閲覧者に、信頼性の高い状態で、閲覧してもらうことができる。

【 0 0 1 1 】

さらに、本発明によれば、第 2 のマルチメディアデータに、開示者が開示したい第 1 のマルチメディアデータを埋め込む際、当該第 1 のマルチメディアデータの有効期限情報やアクセス条件情報等も埋め込み、当該第 1 のマルチメディアデータが有効期間内である、あるいは情報閲覧者にアクセス権があること等が確認された場合に、当該第 2 のマルチメディアデータを表示する、あるいは当該第 1 のマルチメディアデータを表示する、つまり、有効期間外である場合や情報閲覧者にアクセス権がない場合は、当該第 2 のマルチメディアデータを表示しない、あるいは当該第 1 のマルチメディアデータを表示しない、というように、情報の表示を制御することができる。

【 0 0 1 2 】

具体的には、本発明では、パッケージマークに埋め込む情報が、イベントやセール情報など、情報として有効な期間が限定されるような情報の場合、その有効期限情報もパッケージマークに埋め込み、有効期限を過ぎてから情報閲覧者が閲覧しようとした場合は、当該パッケージマークそのものを表示しない、あるいは当該パッケージマーク内の情報を表示しない、というような情報表示の制御をすることができる。また、本発明では、求職中の個人が開示したいと考えるキャリアや自分の連絡先など、求人している企業の人事担当者には見てもらいたい、他の者には見せたくない個人情報のような、アクセス制限をしたい情報の場合、そのアクセス制御情報をパッケージマークに埋め込み、アクセス権がない情報閲覧者が閲覧しようとした場合は、パッケージマークに埋め込んだ情報を表示しな

い、というような情報表示の制御を行うことができる。

【0013】

さらに、本発明によれば、第2のマルチメディアデータに、第1のマルチメディアデータを埋め込む際、当該第1のマルチメディアデータの詳細情報や関連情報の所在情報を埋め込むことで、情報閲覧者は、当該第1のマルチメディアデータの関連情報や詳細情報を閲覧することができる。

【0014】

具体的には、本発明では、パッケージマークに情報開示者が開示したい情報を埋め込む際、開示したい情報の詳細情報や関連情報を表示している情報開示者自身のサイトのリンク情報や、パッケージマークに関する情報の確認ができるマーク管理者サイトのリンク情報等を埋め込むことで、情報閲覧者は信頼性の高い概要情報を閲覧した上で、必要な関連情報を入手することができる。

【0015】

【本発明の実施の形態】

以下、図面を用いて本発明の実施形態の一例を説明する。ここでは、本発明の詳細を、商品情報等の表示システムの例（実施例（1））を用いて説明する。なお、以下で説明する図面において同一の番号は同様の部品・要素を表すものとする。また、これにより本発明が限定されるものではない。また本発明は、インターネットやイントラネットなどに限定するものではない。

【0016】

実施例（1）商品情報等の表示システム

図1は、本発明の情報表示システムの概略構成を示したものである。本実施形態の情報表示システムは、パッケージマークの管理、生成を行うパッケージマーク管理者100と、何らかの情報を開示・伝達したい情報開示者1101～110n（以下、単に情報開示者110とも称する）と、Webページを表示している情報表示者1201～120n（以下、単に情報表示者120とも称する）と、Webページを閲覧・利用する情報閲覧者1301～130n（以下、単に情報閲覧者130とも称する）が利用するシステムであって、図1に示すように、パッケージマーク管理サーバ101、パッケージマーク管理者WWWサーバ10

2、情報開示者端末1111～111n（以下、単に情報開示者端末111とも称する）、情報開示者WWWサーバ1121～112n（以下、単に情報開示者サーバ112とも称する）、情報表示者端末1211～121n（以下、単に情報表示者端末121とも称する）、情報表示者WWWサーバ1221～122n（以下、単に情報表示者サーバ122とも称する）、情報閲覧者端末1311～131n（以下、単に情報閲覧者端末131とも称する）とが、イントラネットやインターネットなどの通信網140を介して、互いに接続されて構成されている。ここで、パッケージマークとは、情報開示者110が開示・伝達したい情報の内容が埋め込まれており、その埋め込まれている情報の内容を象徴するような要素をもつ画像マークであって、情報閲覧者130が、確かに信頼できるパッケージマーク管理者が生成したものであるという確認、埋め込まれている情報は確かに情報開示者の情報であるという確認、及び埋め込まれている情報内容の改ざんの有無、有効期限などの確認ができたり、埋め込まれた情報内容を閲覧できたりするような、手段を伴うマークを示すものとする。なお、情報開示者110は、情報表示者120を兼ねてもよい。また、WWWサーバを持たない情報開示者110がいてもよい。

【0017】

なお、公知例1は、開示・伝達したい情報を表示した上で、その情報の真正性確認手段等を備えたマーク等を貼付するものだが、本実施例で信頼性を確認する対象となるのはマークの生成元やマークに埋め込まれた内容である点異なる。

【0018】

パッケージマーク管理サーバ101は、パッケージマーク管理者100が管理する、パッケージマークの生成、登録などを行うためのサーバである。パッケージマーク管理サーバ101は、情報開示者110からの要求に応じてパッケージマークを生成、登録する。ただし、今までの画像データのためのマークは改ざんや不正コピーが容易であるため、真正性を持たなかったが、

本発明の構成要素の1つであるパッケージマーク管理サーバ101は、マークと、パッケージマーク管理者100、及び埋め込まれた情報の開示元である情報開示者110とを関連付けして後述のパッケージマーク管理DBなどで管理するこ

とによって、真正性を保証するという働きも持っている。

【0019】

パッケージマーク管理者WWWサーバ102は、パッケージマーク管理者100が管理する、

情報閲覧者130がパッケージマークを参照するために必要なパッケージマーク参照プラグインのダウンロード画面を表示したり、パッケージマークに関する情報を公開したりするWebページを送信するためのサーバである。情報閲覧者端末131からのURL要求に応じて、後述のWebページ管理DBを検索して、該当するWebページを送信したり、後述のパッケージマーク参照プラグインDBからプラグインを送信したりする。

【0020】

情報開示者端末111は、情報開示者110が使用する端末である。情報開示者110は、情報開示者端末111を使って、開示したい情報を作成したり、パッケージマーク管理者100とデータのやりとりを行ったりする。

【0021】

情報開示者WWWサーバ112は、情報開示者110が管理する、パッケージマークに埋め込む開示したい情報の詳細情報や関連情報を表示するWebページを送信するためのサーバである。情報閲覧者端末131からの、パッケージマークに埋め込まれたリンク情報により指定されたURLの要求に応じて、後述のWebページ管理DB308を検索して、該当するWebページを送信する。

【0022】

情報表示者端末121は、情報表示者120が使用する端末である。情報表示者WWWサーバ122で表示するWebページを作成したりする。

【0023】

情報表示者WWWサーバ122は、情報表示者120が管理する、Webページを送信するためのサーバである。パッケージマーク管理サーバ101からのパッケージマーク貼付要求に応じて、パッケージマークをWebページに貼付したり、パッケージマークが貼付されたWebページを送信したり、貼付完了通知をパッケージマーク管理サーバ101に送信したりする。

【 0 0 2 4 】

情報閲覧者端末 1 3 1 は、情報閲覧者 1 3 0 が使用する端末である。情報閲覧者 1 3 0 は、情報閲覧者端末 1 3 1 を使って、インターネットやイントラネットの Web ページにアクセスする。

【 0 0 2 5 】

画面イメージ 1 3 2 は、情報閲覧者端末 1 3 1 が表示する、パッケージマークが貼付された Web ページの画面イメージ例である。表示形式はこれに限定するものではなく、商品やサービス情報を表示するための専用ページなどにパッケージマークを貼付してもよい。また情報閲覧者端末 1 3 1 は、P C に限定するものではない。

【 0 0 2 6 】

図 2 は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 のハードウェア構成を示したものである。

【 0 0 2 7 】

本実施形態のパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 のハードウェア構成は、図 2 に示すように、表示装置 2 0 1 と、入力装置 2 0 2 と、通信網インタフェース 2 0 3 と、記憶装置 2 0 4 と、中央処理装置（C P U）2 0 5 と、一時記憶装置（メモリ）2 0 6 と、パッケージマーク管理 DB インタフェース 2 0 7 と、パッケージマークログ管理 DB インタフェース 2 0 8 が、バス 2 0 0 によって互いに接続されて構成されている。また外部記憶装置として、パッケージマーク管理 DB 2 0 9、パッケージマークログ管理 DB 2 1 0 が接続している。

【 0 0 2 8 】

表示装置 2 0 1 は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 を使用するパッケージマーク管理者 1 0 0 にメッセージなどを表示するために用いられるものであり、C R T や液晶ディスプレイなどで構成されている。

【 0 0 2 9 】

入力装置 2 0 2 は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 を使用するパッケージマーク管理者 1 0 0 がデータや命令などを入力するために用いられるものであり、キーボードやマウスなどで構成される。

【 0 0 3 0 】

通信網インタフェース 2 0 3 は、通信網 1 4 0 を介して、情報開示者端末 1 1 1 等とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。

【 0 0 3 1 】

記憶装置 2 0 4 は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 などで使用されるプログラムやデータを永続的に記憶するために用いられるものであり、ハードディスクやフロッピーディスクなどで構成される。

【 0 0 3 2 】

CPU 2 0 5 は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 を構成する各部を統括的に制御したり、様々な演算処理を行ったりする。

【 0 0 3 3 】

メモリ 2 0 6 には、オペレーティングシステム 2 0 6 a（以下、単に OS 2 0 6 a と称する）やパッケージマーク管理処理部 2 0 6 b といった、CPU 2 0 5 が上記の処理をするために必要なプログラムなどが一時的に格納される。

【 0 0 3 4 】

ここで、OS 2 0 6 a は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 全体の制御を行うために、ファイル管理やプロセス管理、あるいはデバイス管理といった機能を実現するためのプログラムである。

【 0 0 3 5 】

パッケージマーク管理処理部 2 0 6 b は、情報開示者端末 1 1 1 からパッケージマークの登録／貼付要求があった場合に、第 3 者からの不正な要求でないかを確認する処理、登録／貼付すると判定した場合に、送付されたパッケージマーク基本デザインまたはパッケージマーク管理 DB 2 0 8 で管理しているパッケージマーク基本デザインに情報を埋め込む処理、情報の埋め込み処理に基づいてパッケージマーク管理 DB 2 0 9 やパッケージマークログ管理 DB 2 1 0 を更新する処理、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 にパッケージマークの貼付依頼を送信する処理、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 からのパッケージマーク貼付完了通知を受信した場合に、要求元の情報開示者端末 1 1 1 にパッケージマーク配布完了通知を送信する処理などを行う処理部である。

【 0 0 3 6 】

パッケージマーク管理DBインタフェース207は、パッケージマーク管理DB209とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。パッケージマーク管理DB209は、情報開示者ID、パッケージマークID、基本認証情報、公開鍵、パッケージマーク基本デザインといったデータを対応づけて管理するものであり、例えば図6のようなものである。また、パッケージマーク管理DB209は、権限を有した者のみが更新できる。

【 0 0 3 7 】

パッケージマークログ管理DBインタフェース208は、パッケージマークログ管理DB210とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。パッケージマークログ管理DB210は、パッケージマークのログ情報を管理するためのDBで、パッケージマークID、通算NO.、作成日時といったデータを対応づけて管理するものであり、例えば図7のようなものである。また、パッケージマークログ管理DB210は、権限を有した者のみが更新できる。

【 0 0 3 8 】

なお、パッケージマークに埋め込む情報は図8のようなものである。画像データの中に特定の情報を埋め込む技術は、「電子透かし」として知られている。「電子透かし」の技術については日経エレクトロニクス1997年683号の100ページから107ページに記載されている。人間の目では判別できないように情報を埋め込む不可視透かしと、人間の目にも見える形で情報を埋め込む可視透かしがあり、不可視透かしの場合埋め込む情報量に限界があると言われている。パッケージマークの場合、パッケージマークに埋め込まれている情報の内容を象徴するパッケージマークデザインを情報閲覧者130が閲覧した際、パッケージマークにどういう情報が埋められているかを判断できる範囲であれば、多少マークデザインを変更しても支障がないので、不可視透かしを用いても、かなりの容量の情報を埋め込むことができる。

【 0 0 3 9 】

図3は、パッケージマーク管理者WWWサーバ102のハードウェア構成を示したものである。

【0040】

本実施形態のパッケージマーク管理者WWWサーバ102のハードウェア構成は、図3に示すように、表示装置301と、入力装置302と、通信網インタフェース303と、記憶装置304と、中央処理装置（CPU）305と、一時記憶装置（メモリ）306と、WebページDBインタフェース307と、パッケージマーク参照プラグインDBインタフェース308と、公開鍵DBインタフェース309が、バス300によって互いに接続されて構成されている。また外部記憶装置として、WebページDB310とパッケージマーク参照プラグインDB311と公開鍵DB312が接続している。

【0041】

表示装置301は、パッケージマーク管理者WWWサーバ102を使用する情報閲覧者100にメッセージなどを表示するために用いられるものであり、CRTや液晶ディスプレイなどで構成されている。

【0042】

入力装置302は、パッケージマーク管理者WWWサーバ102を使用する情報閲覧者100がデータや命令などを入力するために用いられるものであり、キーボードやマウスなどで構成される。

【0043】

通信網インタフェース303は、通信網140を介して、情報閲覧者端末131等とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。

【0044】

記憶装置304は、パッケージマーク管理者WWWサーバ102で使用されるプログラムやデータを永続的に記憶するために用いられるものであり、ハードディスクやフロッピーディスクなどで構成される。

【0045】

CPU305は、パッケージマーク管理者WWWサーバ102を構成する各部を統括的に制御したり、様々な演算処理を行ったりする。

【0046】

メモリ306には、OS306aや、Webサーバプログラム306b、パッ

ページマーク参照プラグイン管理処理部306cといった、CPU305が上記の処理をするために必要なプログラムなどが一時的に格納される。

【0047】

ここで、OS306aは、パッケージマーク管理者WWWサーバ102全体の制御を行うために、ファイル管理やプロセス管理、あるいはデバイス管理といった機能を実現するためのプログラムである。

【0048】

WWWサーバプログラム306bは、情報閲覧者端末131からアクセスがあった場合に、WebページDB310に格納されている当該Webページを送信する処理などを行うプログラムである。

【0049】

パッケージマーク参照プラグイン管理処理部306cは、情報閲覧者端末131からパッケージマーク参照プラグインのダウンロード要求があった場合に、当該プラグインや公開鍵のダウンロード処理を行うためのプログラムである。

【0050】

WebページDBインタフェース307は、WebページDB309とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。

【0051】

パッケージマーク参照プラグインDBインタフェース308は、パッケージマーク参照プラグインDB311とデータのやりとりを行うためのインタフェースである。パッケージマーク参照プラグインDB311は、パッケージマークの参照プラグインを格納するDBで、バージョン情報、プラグインプログラム、対応マークIDといったデータを対応づけて管理するものであり、例えば図9のようなものである。また、パッケージマーク参照プラグイン管理DB311は、権限を有した者のみが更新できる。

【0052】

公開鍵DBインタフェース309は、公開鍵DB312とデータのやりとりを行うためのインタフェースである。公開鍵DB312は、パッケージマークに埋め込む電子署名を復号化するために必要な公開鍵を格納するDBで、パッケージ

マーク管理者名称、管理者メールアドレス、公開鍵、対応マークIDといったデータを対応づけて管理するものであり、例えば図10のようなものである。また、公開鍵DB312は権限を有した者のみが更新できる。複数のパッケージマークサービス事業者がいる場合は、相互に実在や適正を確認した後に、相手の公開鍵を公開鍵DB312に登録する。

【0053】

図4は、情報表示者WWWサーバ122のハードウェア構成を示したものである。

【0054】

本実施形態の情報表示者WWWサーバ122のハードウェア構成は、図4に示すように、表示装置401と、入力装置402と、通信網インタフェース403と、記憶装置404と、中央処理装置（CPU）405と、一時記憶装置（メモリ）406と、WebページDBインタフェース407が、バス400によって互いに接続されて構成されている。また外部記憶装置として、WebページDB408が接続している。

【0055】

表示装置401は、情報表示者WWWサーバ122を使用する情報表示者120にメッセージなどを表示するために用いられるものであり、CRTや液晶ディスプレイなどで構成されている。

【0056】

入力装置402は、情報表示者WWWサーバ122を使用する情報表示者120がデータや命令などを入力するために用いられるものであり、キーボードやマウスなどで構成される。

【0057】

通信網インタフェース403は、通信網140を介して、情報閲覧者端末131等とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。

【0058】

記憶装置404は、情報表示者WWWサーバ122などで使用されるプログラムやデータを永続的に記憶するために用いられるものであり、ハードディスクやフ

ロッピーディスクなどで構成される。

【 0 0 5 9 】

C P U 4 0 5 は、情報表示者 W W W サーバ 1 2 2 を構成する各部を統括的に制御したり、様々な演算処理を行ったりする。

【 0 0 6 0 】

メモリ 4 0 6 には、O S 4 0 6 a や、W e b ページ作成プログラム 4 0 6 b、パッケージマーク貼付処理部 4 0 6 c といった、C P U 4 0 5 が上記の処理をするために必要なプログラムなどが一時的に格納される。

【 0 0 6 1 】

ここで、O S 4 0 6 a は、情報表示者 W W W サーバ 1 2 2 全体の制御を行うために、ファイル管理やプロセス管理、あるいはデバイス管理といった機能を実現するためのプログラムである。

【 0 0 6 2 】

W W W サーバプログラム 4 0 6 b は、情報表示者端末 1 2 1 と通信し、受取った W e b ページを W e b ページ D B 4 0 8 に格納する処理と、情報閲覧者端末 1 3 1 からアクセスがあった場合に、W e b ページ D B 4 0 8 に格納されている当該 W e b ページを送信する処理とを行うプログラムである。

【 0 0 6 3 】

パッケージマーク貼付処理部 4 0 6 c は、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 からパッケージマーク貼付要求があった場合に、パッケージマークの貼付を行う処理、パッケージマークの貼付後、貼付完了通知をパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 に送信する処理、パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 からパッケージマーク取消要求があった場合に、パッケージマークの取消を行う処理、パッケージマークの取消後、取消完了通知をパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 に送信する処理を行うためのプログラムである。

【 0 0 6 4 】

W e b ページ D B インタフェース 4 0 7 は、W e b ページ D B 4 0 8 とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。W e b ページ D B 4 0 8 は、パッケージマークが貼付された W e b ページなどを格納するものである。

【 0 0 6 5 】

図 5 は、情報閲覧者端末 1 3 1 のハードウェア構成を示したものである。

【 0 0 6 6 】

本実施形態の情報閲覧者端末 1 3 1 のハードウェア構成は、図 5 に示すように、表示装置 5 0 1 と、入力装置 5 0 2 と、通信網インタフェース 5 0 3 と、記憶装置 5 0 4 と、中央処理装置（CPU） 5 0 5 と、一時記憶装置（メモリ） 5 0 6 が、バス 5 0 0 によって互いに接続されて構成されている。

【 0 0 6 7 】

表示装置 5 0 1 は、情報閲覧者端末 1 3 1 を使用する情報閲覧者 1 3 0 にメッセージなどを表示するために用いられるものであり、CRT や液晶ディスプレイなどで構成されている。

【 0 0 6 8 】

入力装置 5 0 2 は、情報閲覧者端末 1 3 1 を使用する情報閲覧者 1 3 0 がデータや命令などを入力するために用いられるものであり、キーボードやマウスなどで構成される。

【 0 0 6 9 】

通信網インタフェース 5 0 3 は、通信網 1 4 0 を介して、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 や情報開示者 WWW サーバ 1 1 2 等とデータのやり取りを行うためのインタフェースである。

【 0 0 7 0 】

記憶装置 5 0 4 は、情報閲覧者端末 1 3 1 などで使用されるプログラムやデータを永続的に記憶するために用いられるものであり、ハードディスクやフロッピーディスクなどで構成される。

【 0 0 7 1 】

CPU 5 0 5 は、情報閲覧者端末 1 3 1 を構成する各部を統括的に制御したり、様々な演算処理を行ったりする。

【 0 0 7 2 】

メモリ 5 0 6 には、OS 5 0 6 a や、ブラウザシステム 5 0 6 b、パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c、 パッケージマーク情報記憶部 5 0 6 d といった、

CPU 5 0 5 が上記の処理をするために必要なプログラムなどが一時的に格納される。

【 0 0 7 3 】

ここで、OS 5 0 6 a は、情報閲覧者端末 1 3 1 全体の制御を行うために、ファイル管理やプロセス管理、あるいはデバイス管理といった機能を実現するためのプログラムである。

【 0 0 7 4 】

ブラウザプログラム 5 0 6 b は、情報閲覧者端末 1 3 1 が情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 や情報開示者 WWW サーバ 1 1 2 と通信し、Web ページをダウンロードするためのプログラムである。

【 0 0 7 5 】

パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c は、ブラウザプログラム 5 0 6 b がパッケージマーク付きの Web ページをダウンロードした場合に、パッケージマークが認識されるとパッケージマーク参照処理部 5 0 6 c が起動し、パッケージマーク情報記憶部 5 0 6 d にある公開鍵とパッケージマークに添付された公開鍵の照合をする処理、公開鍵によりパッケージマークに埋め込まれた電子署名の復号化を行う処理、前記公開鍵で復号化した情報とパッケージマークから抽出した情報を照合する処理、前記照合の結果合致しない場合は、エラーメッセージを表示する処理、前記抽出した情報の有効期限情報と情報閲覧者端末 1 3 1 の時計情報とを照合し、有効期間切れと判断される場合はエラーメッセージを表示する処理、パッケージマークに埋め込まれた情報を抽出して表示する処理、などを行う。ここで、公開鍵はあらかじめパッケージマーク管理者 WWW サーバから入手してもよいし、前記処理の際に後述の処理フローのように、ダウンロードしてもよい。

【 0 0 7 6 】

パッケージマーク情報記憶部 5 0 6 d は、パッケージマーク参照プラグインをダウンロードする際に入手するパッケージマーク管理者 1 0 0 の公開鍵や、情報閲覧者端末 1 3 1 で、パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c によって、抽出した情報などを格納するものである。パッケージマーク管理者の公開鍵データは、パッケージマーク管理者名称、管理者メールアドレス、公開鍵といったデータが対応

づけられて格納されており、例えば図 1 0 のようなものである。

【 0 0 7 7 】

図 6 は本実施形態のパッケージマーク管理 DB 2 0 9 のデータ例を示す図である。情報開示者登録 ID 6 0 1、パッケージマーク ID 6 0 2、情報開示者名称 6 0 3、情報開示者の代表者氏名 6 0 4、代表者住所 6 0 5、代表者電話番号 6 0 6、担当者氏名 6 0 7、担当者メールアドレス 6 0 8、貼付先条件 6 0 9、パッケージマーク基本デザイン 6 1 0 等を一定の表記基準に基づいて表記を統一して格納する。新しいパッケージマークを登録したり、担当者氏名等の情報を変更した際に、パッケージマーク管理 DB 2 0 9 を更新する。なお、図 6 のパッケージマーク基本デザイン例は、横長の長方形、グラデーションという画像データだが、形状、塗りつぶしデザインには様々なバリエーションがあり、また動画、アニメーション、音声付き、またはその組み合わせなどでもよい。。また、パッケージマーク基本デザインは、情報開示者 1 1 0 が作成、またはパッケージマーク管理者 1 0 0 が提示した基本デザインから情報開示者 1 1 0 が選択してもよい。

【 0 0 7 8 】

図 7 は本実施形態のパッケージマークログ管理 DB 2 1 0 のデータ例を示す図である。パッケージマーク ID 7 0 1、通算 NO. 7 0 2、作成日時 7 0 3、パッケージタイトル 7 0 4、パッケージ内容 7 0 5、リンク情報 7 0 6、有効期限情報 7 0 7、電子署名 7 0 8、貼付依頼先メールアドレス 7 0 9、貼付完了通知受信日時 7 1 0 等を一定の表記基準に基づいて表記を統一して格納する。パッケージマーク管理サーバ 1 0 1 は、情報開示者端末 1 1 1 からパッケージマークの配布要求に応じて、パッケージマークを生成した際に、パッケージマークログ管理 DB 2 1 0 を更新する。貼付完了通知受信日時 7 0 9 は、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 からの貼付完了通知を受信した際、登録する。

【 0 0 7 9 】

図 8 は、パッケージマークに埋め込む情報のデータ例を示す図である。パッケージマーク ID 8 0 1、通算 NO. 8 0 2、情報開示者名称 8 0 3、パッケージタイトル 8 0 4、パッケージ内容 8 0 5、リンク情報 8 0 6、情報表示者名称 8 0 7、情報表示者 URL 8 0 8、有効期限情報 8 0 9、管理者名称 8 1 0、管理

者URL 811、電子署名812等を一定の表記基準に基づいて表記を統一してパッケージマークに埋め込む。電子署名は、パッケージマークID 801から管理者URL 810までの情報を暗号化したものとし、この署名の復号化に必要な公開鍵は、パッケージマーク管理者100が公開鍵DB 312に格納して管理しているものとし、情報閲覧者端末131は信頼できるパッケージマーク管理者WWWサーバ102から、公開鍵を入手するものとする。また、貼付先を特に指定しない場合は、情報表示者名称807と情報表示者URL 808は不要となる。また、情報開示者110がパッケージマーク管理者100を兼ねる場合は、管理者名称810、管理者URL 811はなくてもよく、情報開示者100の連絡先情報を埋め込んでもよい。

【0080】

図9は、本実施形態のパッケージマーク参照プラグインDB 311のデータ例を示す図である。バージョン情報901、プログラム902、対応マークID 903等を一定の表記基準に基づいて表記を統一して格納する。

【0081】

図10は、本実施形態の公開鍵DB 312のデータ例を示す図である。パッケージマーク管理者1001、管理者メールアドレス1002、公開鍵1003、対応マークID 1004等を一定の表記基準に基づいて表記を統一して格納する。

【0082】

図11は、本実施形態のパッケージマーク登録／貼付処理の処理手順を示すフローチャートである。図11では、情報開示者端末111とパッケージマーク管理サーバ101と情報表示者WWWサーバ122との間でパッケージマークの登録／貼付を行う処理フローを表わしている。

【0083】

まず、情報開示者端末111が、情報開示者名称や開示したい情報など、図6で示すような情報を含むパッケージマーク登録／貼付要求をパッケージマーク管理サーバ101に送信する（ステップ1101）。なお、情報開示者110が、新規登録である場合は、要求元である情報開示者110は身分証明書、例えばベ

リサインなどによるサーバ証明書、代表者の印鑑登録証明書などを別途送付し、パッケージマーク管理者 1 0 0 が情報開示者 1 1 0 の実在確認及び本人確認ができた場合のみ、パッケージマークの登録／貼付要求を受けつけるものとする。

【 0 0 8 4 】

パッケージマークの貼付要求を受信したパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 は、パッケージマーク管理 DB 2 0 9 を検索して、担当者連絡先などの登録内容を確認した上で、当該要求内容や要求元を確認するために、確認通知を情報開示者端末 1 1 1 に送信する（ステップ 1 1 0 2、1 1 0 3）。ここで、新規登録の場合は、パッケージマーク管理者 1 0 0 が、新規に情報開示者 ID やパッケージマーク ID を設定し、これを含めた確認通知を送信する。

【 0 0 8 5 】

情報開示者端末 1 1 1 が確認通知を受信すると、情報開示者 1 1 0 は内容を確認した上で、

受信結果をパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 に送信する（ステップ 1 1 0 4、1 1 0 5）。

【 0 0 8 6 】

確認通知の受信結果を受信したパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 は、要求内容に基づいて、

パッケージマークに図 8 のような情報を埋め込み（ステップ 1 1 0 6、1 1 0 7）、新規登録及び登録時の内容を更新する必要がある場合はパッケージマーク管理 DB 2 0 9 を更新した後、パッケージマークログ管理 DB 2 1 0 を更新し（ステップ 1 1 0 8）、公開鍵を添付したパッケージマークと貼付依頼を情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 に送信する（ステップ 1 1 0 9）。ここで、情報表示者 1 2 0 は、あらかじめパッケージマーク貼付先として、パッケージマーク管理者 1 0 0 と契約するものとし、事前あるいはパッケージマーク貼付依頼の送信時に、パッケージマーク管理者 1 0 0 は、パッケージマーク貼付処理に必要なプログラムを、情報表示者 1 2 0 に送付するものとする。

【 0 0 8 7 】

貼付依頼を受信した情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 は、パッケージマークを貼

付する場所としてあらかじめ定めた Web ページに当該パッケージマークを貼付後、貼付完了通知をパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 に送信する（ステップ 1 1 1 0、1 1 1 1）。貼付完了通知を受信したパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 は、情報開示者端末 1 1 1 に貼付完了通知を送信し、情報開示者端末 1 1 1 が貼付完了通知を受信することで、登録／貼付の処理は終了となる（ステップ 1 1 1 2、1 1 1 3、1 1 1 4）。なお、パッケージマークは有効期限等による表示の制御ができる機能をもつが、有効期間から一定期間を過ぎたものの削除については、定期的に、パッケージマーク管理者 1 3 0 より、情報表示者 1 2 0 に削除依頼を送付するものとする。

【 0 0 8 8 】

図 1 2 は、本実施形態のパッケージマーク参照処理の処理手順を示すフローチャートである。

【 0 0 8 9 】

情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 がパッケージマークを自己の Web ページに貼付後、情報閲覧者端末 1 3 1 が当該 Web ページを表示して、パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c によってパッケージマークを参照する場合の、情報閲覧者端末 1 3 1、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2、情報開示者 WWW サーバ 1 1 2 の動作を説明するための図である。

【 0 0 9 0 】

まず、情報閲覧者端末 1 3 1 からの URL 指定を受けて、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 は Web ページ DB 4 0 9 を検索し、パッケージマークが貼付された Web ページを情報閲覧者端末 1 3 1 に送信する（ステップ 1 2 0 1、1 2 0 2、1 2 0 3）。

【 0 0 9 1 】

パッケージマークが貼付された Web ページを受信した情報閲覧者端末 1 3 1 は、パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c がパッケージマークを認識すると（ステップ 1 2 0 4、1 2 0 5）、パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c が起動し（ステップ 1 2 0 6）、パッケージマーク情報格納部 5 0 6 d に格納してある公開鍵と、パッケージマークに添付された公開鍵とを照合し（ステップ 1 2 0 7）、

合致しない場合は、パッケージマークを表示しない（ステップ 1 2 0 8）。合致した場合、公開鍵により復号化した電子署名の情報と埋め込まれた情報とを照合し（ステップ 1 2 0 9）、ここで合致しない場合は、パッケージマークを表示しない（ステップ 1 2 1 0）。合致した場合、埋め込まれた有効期限情報と情報閲覧者端末 1 3 1 の時計情報とを照合し（ステップ 1 2 1 1）、ここで合致しない場合は、パッケージマークを表示しない（ステップ 1 2 1 2）。合致した場合は、図 1 の画面イメージ 1 3 2 のようにパッケージマークを表示する（ステップ 1 2 1 3）。ここで、パッケージマークを表示しない場合に、当該エラーメッセージを表示してもよい。また認証 NG などの文字をマークに付加して表示するなど、マークデザインを変化させてもよい。

【 0 0 9 2 】

パッケージマークは、図 1 3 のように、図 6 で示したようなパッケージマーク基本デザイン 6 1 0 に、図 8 で示したようなパッケージタイトル 7 0 4 を付加したものとするが、この表記形式に限定するものではない。なお、情報閲覧者端末 1 3 1 にパッケージマーク参照処理部 5 0 6 c がいない場合の処理手順は後述の図 1 4 にて説明する。

【 0 0 9 3 】

情報閲覧者端末 1 3 1 が表示したパッケージマークをクリックされたことを認識すると、図 1 3 のようなパッケージマークメニューを表示し（ステップ 1 2 1 4、1 2 1 5）、さらに情報閲覧者端末 1 3 1 が当該パッケージマークメニューにあるパッケージ内容表示ボタンをクリックされたことを認識すると、パッケージマークに埋め込まれている、図 8 で例示したようなパッケージ内容 8 0 5 を表示する（ステップ 1 2 1 6、1 2 1 7）。なお、このパッケージマークメニュー画面イメージ 1 3 0 2 は、メニュー例であり、このメニュー項目、表記形式に限定するものではない。

【 0 0 9 4 】

パッケージ内容を閲覧した情報閲覧者 1 3 0 が、内容の信頼性（マーク管理者、改ざんの有無、有効期限など）を確認するために、後述の図 1 3 で示すような内容確認ボタンをクリックすると、これを認識した情報閲覧者端末 1 3 1 は、図

8で例示したような、情報開示者名称803、パッケージマーク管理者名称810、有効期限情報809など、前述処理で確認した結果を表示する（ステップ1218、1219）。なお、内容確認結果の表示はダイアログによるテキスト表示、音声表示、あるいはその組み合わせなど、表示形式を限定するものではない。

【0095】

パッケージ内容の信頼性を確認した情報閲覧者130が、さらに詳細情報を閲覧するために、後述の図13で示すようなリンクボタンをクリックすると、これを認識した情報閲覧者端末131は、リンク先URLを送信し（ステップ1220、1221）、これを受信した情報開示者WWWサーバ112は、WebページDB1225を検索して、該当するWebページを情報閲覧者端末131に送信し（ステップ1222、1223）、情報閲覧者端末131はこれを受信して、リンク先である情報開示者110の情報を表示する（ステップ1224）。

【0096】

なお、ここでは、パッケージマーク参照処理部506cがパッケージマークを認識後、自動的に内容確認の処理を行う例を示したが、自動的に内容確認処理の起動しないで、パッケージマークの内容確認ボタンをクリックするなど情報閲覧者130の指示により、内容確認の処理が動作するようにしてもよい。また、内容確認の結果、何らかの合致しない情報があった場合は、パッケージマークに×をつけるなど、マークデザインを変化させるようにしたり、パッケージ内容等の表示をしないようにしたりしてもよい。また、内容確認の処理として、公開鍵の照合、復号化した情報と埋め込まれた情報との照合、有効期限情報と端末の時計情報との照合、の3つの処理を示したが、このうち1つの処理のみを自動的に行い、他の処理は情報閲覧者130の指示により行うようにしてもよい。また、ここでは、有効期限情報の確認は、情報閲覧者端末の時計情報との照合により行う場合を示したが、ネットワーク上に時間情報を管理するサーバの情報との照合を行うようにしてもよい。

【0097】

図12では、自動的に内容確認の処理が終了後、パッケージ内容表示、内容確

認、詳細情報へのリンク、の順序で情報閲覧者 1 3 0 がクリックした場合を説明したが、この順序に限定するものではない。

【0098】

図 1 2 では、リンク先情報を表示して処理を終了する例を説明しているが、詳細情報のリンク先画面として、商品やサービスのカタログデータをダウンロードできる画面を表示して、パッケージマークを介して、情報閲覧者 1 3 0 が、情報開示者 1 1 0 のカタログデータなどをダウンロードできるようにしてもよい。

【0099】

情報開示者 1 2 0 がパッケージマークの貼付先を限定したい場合は、パッケージマークに埋め込んだ貼付先の情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 の URL と、情報閲覧者端末 1 3 1 で受信した、当該パッケージマークが貼付されている Web ページの URL とを照合し、合致しない場合は、パッケージマークを表示しないようにしてもよい。また、情報開示者 1 2 0 がパッケージマークの貼付先を限定しない場合は、情報閲覧者 1 3 0 が、関心をもったパッケージマークなどを、情報閲覧者端末 1 3 1 に格納し、情報閲覧者 1 3 0 が情報を閲覧したい時に、該パッケージマークのリンク情報をもとに、詳細情報や関連情報を閲覧したり、カタログデータをダウンロードできるようにしてもよい。

【0100】

図 1 3 は、パッケージマークイメージ例である。図 6 で示したようなパッケージマーク基本デザイン 6 1 0 に、図 8 で示したようなパッケージタイトル 8 0 5 を付加したものが、パッケージマークイメージ 1 3 0 1 である。情報閲覧者 1 3 0 がこのパッケージマークをクリックすると、情報閲覧者端末 1 3 1 のパッケージマーク参照処理部 5 0 6 c により、パッケージマークメニュー画面イメージ 1 3 0 2 のようなメニュー画面を表示する。なお、パッケージマーク管理者へのリンクは、パッケージマーク管理者 WWW サーバ 1 0 2 が公開する Web ページのパッケージマーク説明や注意情報を表示する画面にアクセスするものである。また、本発明は、このメニュー項目に限定するものではない。

図 1 4 は、情報閲覧者端末 1 3 1 にパッケージマーク参照処理部 5 0 6 c がいない場合の処理手順を示すフローチャートである。情報閲覧者端末 1 3 1 とパッ

ージマーク管理者WWWサーバ102との間で、パッケージマークの参照処理に必要なプラグインと公開鍵のダウンロードを行う処理フローを説明する。

【0101】

まず、情報閲覧者端末131は、情報表示者WWWサーバ122が送信するパッケージマークが貼付されたWebページを受信する際、パッケージマーク参照処理部506cがない場合は、パッケージマークが貼付されたWebページのHTMLに記述された情報と情報表示者WWWサーバ122にあるJavaScriptファイルにより、参照にはプラグインが必要であり、まずはクリックしてほしい旨の説明を表示したマークを表示する（ステップ1401）。

【0102】

情報閲覧者130がこのマークをクリックすると、これを認識した情報閲覧者端末131は、

プラグインダウンロード説明画面のURLを送信し、これを受信したパッケージマーク管理者WWWサーバ102は、WebページDB310を検索して、プラグインダウンロード画面を送信する（ステップ1402、1403、1404、1405）。

【0103】

プラグインダウンロード画面を受信した情報閲覧者端末131は、これを表示し（ステップ1406）、情報閲覧者130によりダウンロードボタンがクリックされたことを認識するとステップ1407）、ダウンロード要求をパッケージマーク管理者WWWサーバ102に送信しステップ1408）、これを受信したパッケージマーク管理者WWWサーバ102は、プラグインを送信、情報閲覧者端末131は、プラグインのダウンロード処理を完了する（ステップ1409、1410、1411）。

【0104】

なお、情報閲覧者130は、情報閲覧者端末131により、プラグインダウンロード画面のURLを直接指定して、パッケージマーク管理者WWWサーバ102にアクセスして、プラグインをダウンロードしてもよい。また、パッケージマーク管理者100に限らず、信頼できる情報表示者120や情報開示者110の

WWWサーバからプラグインをダウンロードできるようにしてもよい。また、複数のパッケージマーク管理者 1 0 0 が存在する場合は、パッケージマーク管理者と公開鍵とを対応づけて、表記を統一した形でパッケージマーク情報記憶部 5 0 6 d に格納するものとする。

【 0 1 0 5 】

また、情報開示者 1 1 0 が、開示したい商品情報等を埋め込んだパッケージマークを、複数の情報表示者WWWサーバ 1 2 2 が公開するWebページに表示してもらいたい場合、情報閲覧者 1 3 0 は、当該商品が売り切れていないかどうかを、情報表示者WWWサーバ 1 2 2 が公開するWebページのパッケージマークを参照するだけでは確認できないため、パッケージマークに埋め込んだリンク情報をもとに、商品の在庫状況やサービスの利用状況などが確認できるよう、情報開示者WWWサーバ 1 1 2 が公開するWebページにアクセスできるようにしてもよい。

【 0 1 0 6 】

以上、本発明の実施形態について、商品やサービス情報の表示システムの例を用いて説明したが、本発明はこの実施形態に限定されるものではない。他の例を用いて、本発明の実施形態の説明を加える。

【 0 1 0 7 】

実施例（２）求人求職情報等の表示システム

他の実施形態の一例として、求人求職情報等の表示システムの説明を行う。

【 0 1 0 8 】

本実施形態の情報表示システムの概略構成は、基本的には図 1 と同じである。ただし、求職情報を開示したい者は個人が多いことから、図 1 5 のように、WWWサーバを持たない情報開示者 1 1 0 がいる場合がある。

【 0 1 0 9 】

図 1 5 は、WWWサーバを持たない情報開示者 1 1 0 がいる場合のシステムの概略構成である。また、求人求職情報を表示する場合は、図 1 の画面イメージ 1 3 2 のように表示する場合もあるが、図 1 5 の画面イメージ 1 5 0 1 のような、専用ページを設ける場合もある。

【0110】

なお、図15のようにWWWサーバを持たない情報開示者が開示したい情報を埋め込む場合は、図16のように、詳細情報へのリンクボタンではなく、情報開示者のメールアドレスや電話番号などの連絡先を表示するためのボタンを設定してもよい。また、情報開示者110が求職情報を複数の情報表示者WWWサーバ122のWebページで表示してもらいたい場合、どこかのWebページで仕事が取れたかどうかを、他のWebページの情報閲覧者130が確認できるように、状況はパッケージマーク管理者WWWサーバ102で確認できるよう、図16のように、パッケージマークメニューの中に、パッケージマーク管理者WWWサーバ102へのリンクボタンを設定してもよい。

【0111】

図16は実施例(2)のような場合のパッケージマークイメージを説明した図である。パッケージマークイメージ1601はイメージ例であり、パッケージマークメニュー画面イメージ1602はメニュー例である。このイメージやメニュー項目、表記形式に限定するものではない。

【0112】

本システムの動作フローは、基本的には図10、図11、図14と同じである。ただし、求職情報のように、情報開示者である個人のキャリアや連絡先を伴うような情報は、匿名の不特定多数の情報閲覧者130には開示したくない情報であるので、情報閲覧者130は身分証明書を送付の上、登録を行わないと、パッケージマーク参照プラグインを入手できないようにしてもよい。また、企業の人事担当者にのみ開示したい情報がある場合は、情報閲覧者130が企業の人事担当者の場合にのみ、パッケージマーク内容を表示できるように設定してもよい。パッケージマークにアクセス条件を埋め込み、情報閲覧者端末131に配布するパッケージマーク参照プラグインに、該情報閲覧者の属性情報を格納して、パッケージマークに埋め込んだアクセス条件と情報閲覧者の属性情報とを照合して、合致しない場合は、パッケージマークに埋め込まれたパッケージ内容を表示しないようにすればいい。なお、この方法は、求人求職情報の表示に限らず、個人間の売買情報や趣味の仲間を集めるための情報の表示など、何らかの個人情報に伴

うような、パッケージマークに埋め込む情報の表示をある程度制御したい場合に広く適用できる。情報表示者としては、情報が多数表示されていることは広く公開して、情報閲覧者を集めたいといえ、情報開示者としては、身元が確かであれば多くの情報閲覧者に情報を表示したいといえるので、そういう点でこの方法は有用である。

【 0 1 1 3 】

実施例（３）市場価値をもつ情報の表示システム

他の実施形態の一例として、貨幣やポイントなど何らかの市場価値をもつ情報の表示システムの説明を行う。

【 0 1 1 4 】

近年、「エコマネー」という、国家の正式な貨幣ではなく、地域などのローカルルールにより特定の市場価値をもつ貨幣が、一部の地域で使われ始めている。また、商店街のポイント制度など、貨幣ではないが、後日換金できたり、物と交換できるような市場価値をもつ、正式な貨幣とは別の単位を使う仕組みは以前から広く使用されている。これらの何らかの市場価値をもつ貨幣やポイントなどを、ネットワーク上で利用する場合、複数の貨幣単位を併用するためには、デジタルにカウントできるだけでなく、視認性をもたせて種別を判別しやすくしたり、その仕組みや所有者を確認できることが重要であるといえ、本発明の適用が有用である。

【 0 1 1 5 】

本実施形態の情報表示システムの概略構成は、基本的には図 1 5 と同じである。ただし、このシステムでは、情報開示者 1 1 0 は WWW サーバを使用しなくてもよい。

【 0 1 1 6 】

本実施形態の処理は、基本的には図 1 1、図 1 2、図 1 4 と同じである。ただし、異なる場合もあり、マーク貼付処理の動作フローについて、図 1 7 を用いて説明する。ここでは、少なくとも一人の情報開示者 1 1 0 が、国家の貨幣とは異なる、地域に固有の何らかの市場価値をもつもの（以下、ポイントパッケージマークとも称す）を、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 の Web ページで開示し、該

ポイントパッケージマークと交換して介護ボランティアを求人する場合とする。
また、該情報開示者110は、事前に何らかのボランティア活動などを行って、ポイントパッケージマークを所有しており、該ポイントパッケージマークはそのポイント数に応じて、該情報開示者110が住む地域では他の物やサービスとの交換が可能なものとする。

【0117】

まず、情報開示者端末111が、情報開示者名称や必要なポイント数などを含むポイントパッケージマークの送付要求を、パッケージマーク管理サーバ101に送信する（ステップ1701）。ポイントパッケージマークの送付要求を受信したパッケージマーク管理サーバ101は、ポイントパッケージマーク管理DB1711を検索し、格納しているポイントパッケージマークの所有者情報やポイント数などと要求元の情報を照合し、ポイントパッケージマーク管理DBに格納している情報を元に、要求元及び要求内容の確認通知を、情報開示者端末111に送信する（ステップ1702、1703、1704）。

【0118】

確認通知を受信した情報開示者端末111は、確認通知受信結果をパッケージマーク管理サーバ101に送信し（ステップ1705）、これを受信したパッケージマーク管理サーバ101は、要求内容のポイント数と電子署名をポイントパッケージマークに埋め込み、ポイントパッケージマーク管理DB1711を更新した後、前記ポイントパッケージマークに公開鍵を添付して、情報開示者端末111に送信する（ステップ1706、1707）。

【0119】

ポイントパッケージマークを受信した情報開示者端末111は、ポイントパッケージマーク及び求人情報の表示依頼を情報表示者WWWサーバ122に送信し、情報表示者WWWサーバ122は前記表示依頼を受信すると、表示を行う（ステップ1708、1709、1710）。

【0120】

ポイントパッケージマークの参照処理の動作フローは、基本的には図12と同じである。

【 0 1 2 1 】

ただし、図 1 2 でも明記したように、処理の順序やマークデザインの表示形式などは限定しない。図 1 8 は、ポイントパッケージマークのイメージ例を示したものである。ポイントパッケージマークは、ポイントパッケージマークイメージ 1 8 0 2 のように、何らかの市場価値をもつ貨幣などの種類、そのポイント数、所有者など、ポイントパッケージマークに埋め込む情報を象徴するようなデザインをもち、情報閲覧者端末 1 3 1 は、画面イメージ 1 8 0 1 のように、ポイントパッケージマークが貼付された W e b ページを表示し、ポイントパッケージマークがクリックされたことを認識すると、ポイントパッケージマークメニューイメージ 1 8 0 3 のようなメニューを表示する。ポイントパッケージマークメニューイメージ 1 8 0 3 は、メニュー例であり、このメニュー項目、表記形式に限定するものではない。印紙やクーポンなどマークの発行者情報が問題になる場合は、メニュー項目に発行者情報を追加してもよい。

【 0 1 2 2 】

なお、情報閲覧者端末 1 3 1 が、ポイントパッケージマークをパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 から送付してもらい、情報閲覧者端末 1 3 1 から情報表示者 WWWサーバ 1 2 2 にパッケージマークの表示依頼を行うようなフローは、ポイントパッケージマークの例に限らず、パッケージマークのその他の実施形態例で用いてもよい。

【 0 1 2 3 】

実施例（４）情報閲覧者が情報表示者や情報開示者を兼ねる場合のデータの表示システム

他の実施形態の一例として、情報閲覧者が、情報表示者 1 2 0 が公開する W e b ページを参照せずに、別の手段を用いてパッケージマークを取得する場合や、情報閲覧者 1 3 0 が自らパッケージマークを作成し、閲覧する場合のデータ表示システムの例を説明する。

【 0 1 2 4 】

本実施形態のシステム概略構成は、図 1 9 のようなものである。基本的には、図 5 と同じである。ただし、外部記憶装置 1 9 0 2 とデータのやりとりを行う外

部記憶装置インターフェース1901を設け、FD、CD-ROM、DBなどの外部記憶装置からパッケージマークを取得する構成にしてもよい。無線網インターフェース1903を設け、無線によりパッケージマークを取得する構成にしてもよい。通信網140上のサーバからパッケージマークを取得する構成にしてもよい。また、メモリ506にパッケージマーク管理処理部1904を格納し、情報閲覧者130が自らパッケージマークを作成する構成にしてもよい。

【0125】

情報開示者110がパッケージマークに埋め込む情報のデータ例は、基本的には図8と同じである。ただし、FDなどの記憶媒体、サーバ、無線などにより、情報閲覧者130が、パッケージマークを情報開示者110から直接取得する場合は、情報表示者名称807や情報表示者URL808のかわりに、情報開示者110の連絡先情報をデータ項目としてもよい。また、パッケージマーク管理者100に依頼せず、情報開示者110が自らパッケージマークを作成した場合は、管理者名称810、管理者URL811などはなくてもよい。

【0126】

情報閲覧者130が、入手したイベント情報などを、パッケージマークに埋め込み、使用するような場合の処理フローは図20のようなものである。まず、情報閲覧者端末131は、埋め込む情報のタイトル等をイメージした、パッケージマークの基本デザインを作成する（ステップ2001）。この基本デザインに、パッケージマーク管理処理部1904により、埋め込みたい情報とこの情報の表示制御に必要な情報を埋め込む（ステップ2002）。ここで、パッケージマークに埋め込む情報のデータ例は、基本的には図8と同じであるが、情報開示者110、情報表示者120、パッケージマーク管理者130に関する情報はなくてもよい。また、例えば、情報閲覧者130が有効期限情報だけを情報の表示制御条件にしたいような場合は、図21のような、パッケージ内容2101、有効期限情報2102、表示条件2103といったデータ項目の情報をパッケージマークに埋め込んでもよい。パッケージマークに必要な情報を埋め込んだ後、情報閲覧者端末131のメモリ506などに保存したWebページに貼付する（ステップ2003）。参照処理フローは、基本的には図12と同じである。ただし、

Web ページを参照せずに、前述のような他の方法でパッケージマークを取得する場合、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 や情報開示者サーバ 1 1 2 とのやりとりはなくてもよい。また、有効期限日時から 2 週間前になったらマークを表示する、といった表示の条件に応じて表示を制御してもよい。この場合、パッケージマーク参照処理部 5 0 6 c が、パッケージマークに埋め込まれた有効期限情報と表示条件をもとに算出した日時情報と、情報閲覧者端末 1 3 1 の時計情報とを照合し（ステップ 2 0 0 4）、合致しない場合は、パッケージマークを表示しないようにする（ステップ 2 0 0 5）、合致した場合は、パッケージマークを表示するようにすればよい（ステップ 2 0 0 6）。

【 0 1 2 7 】

なお、このように、何らかの情報の有効期限の確認を目的とするような場合は、パッケージマークを貼付した Web ページを、情報閲覧者端末 1 3 1 においてブラウザシステム 5 0 6 b の起動時に開くようにしてもよい。

【 0 1 2 8 】

実施例（５）モバイル端末によるデータの表示システム

他の実施形態の一例として、携帯電話などのモバイル端末を用いた場合の、データの表示システムの例を説明する。

【 0 1 2 9 】

本実施形態のシステム概略構成は、図 2 2 のようなものである。基本的には図 1 と同じである。ただし、本実施形態では、情報表示者 WWW サーバ 1 2 2 が公開する Web ページなどをとりまとめて、モバイル端末などに配信するような情報配信者 2 2 0 0 が存在する点が異なる。情報配信者 2 2 0 0 は、情報閲覧者 1 3 0 が所有するモバイル端末 2 2 0 3 に情報を配信する情報配信局 2 2 0 1 と、情報を配信する前にパッケージマークの内容確認等を行うパッケージマーク管理サーバ 2 2 0 2 とを管理する。

【 0 1 3 0 】

本実施形態のパッケージマークの処理フローは、基本的には図 1 1 や図 1 2 と同じである。ただし、参照処理フローにおいて、図 1 2 で情報閲覧者端末 1 3 1 が処理するような、公開鍵の照合、公開鍵により復号化した情報と埋め込まれた

情報との照合、埋め込まれた有効期限情報と情報閲覧者端末の時計情報との照合などの、パッケージマークの信頼性を確認する処理は、情報配信者 2 2 0 0 が管理するパッケージマーク管理サーバ 2 2 0 2 で行ってもよい。また前述の信頼性を確認する処理を済ませたパッケージマークを受信したモバイル端末 2 0 0 3 が、有効期間内はモバイル端末の画面にパッケージマークを表示するといった、表示制御手段を備えるようにしてもよい。

【0 1 3 1】

なお、インターネット接続サービスを提供するようなプロバイダーが、前述の情報配信者 2 2 0 0 のようにパッケージマークの信頼性確認等の処理を行い、当該プロバイダーと契約した情報閲覧者端末 1 3 1 に信頼性確認後のパッケージマークを送信するようにしてもよい。

【0 1 3 2】

また、メールにパッケージマークを添付して、情報閲覧者端末 1 3 1 に送信するようにしてもよい。なお、メールを用いる場合は、無線で送信してもよいし、通信網 1 4 0 を介して送信してもよい。

【0 1 3 3】

以上説明したように、情報開示者は、開示・伝達したい情報が埋め込まれており、前記情報の内容を象徴するような要素をもち、真正性確認手段や有効期限確認手段や関連情報へのアクセス手段などを備えたマルチメディアデータを用いることにより、開示・伝達したい情報を、信頼性の高い状態で、多くの情報閲覧者に閲覧してもらえるように表示することができる。また該マルチメディアデータを用いることにより、情報閲覧者としては、信頼性の高い情報を、通信負荷を低減するような方法を用いて、閲覧することができ、情報表示者としては、運用負荷を低減するような方法を用いて、情報の表示を制御することができる。

【0 1 3 4】

【発明の効果】

本発明によれば、開示・伝達したい情報を信頼性の高い状態で多くの情報閲覧者に閲覧してもらえるように表示することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施形態例（１）商品情報等の表示システムの概略構成を示す図である。

【図 2】

本発明の実施形態（１）のパッケージマーク管理サーバ 1 0 1 の概略構成を示す図である。

【図 3】

本発明の実施形態（１）のパッケージマーク管理者 WWW サーバ 1 0 2 の概略構成を示す図である。

【図 4】

本発明の実施形態（１）の情報表示者サーバ 1 2 1 の概略構成を示す図である。

【図 5】

本発明の実施形態（１）の情報閲覧者端末 1 3 1 の概略構成を示す図である。

【図 6】

本発明の実施形態（１）のパッケージマーク管理 DB 2 0 9 のデータ例を示す図である。

【図 7】

本発明の実施形態（１）のパッケージマークログ管理 DB 2 1 0 のデータ例を示す図である。

【図 8】

本発明の実施形態（１）のパッケージマークに埋め込む情報のデータ例を示す図である。

【図 9】

本発明の実施形態（１）のパッケージマーク参照プラグイン DB 3 1 1 のデータ例を示す図である。

【図 1 0】

本発明の実施形態（１）の公開鍵 DB 3 1 2 のデータ例を示す図である。

【図 1 1】

本発明の実施形態（１）のパッケージマーク登録／貼付処理の処理手順を示すフローチャートである。

【図 1 2】

本発明の実施形態（１）のパッケージマーク参照処理の処理手順を示すフローチャートである。

【図 1 3】

本発明の実施形態（１）のパッケージマークイメージ例である。

【図 1 4】

本発明の実施形態（１）の情報閲覧者端末 1 3 1 にパッケージマーク参照処理部 5 0 6 c がない場合の処理手順を示すフローチャートである。

【図 1 5】

本発明の実施形態（２）求人求職情報等の表示システムの概略構成を示す図である。

【図 1 6】

本発明の実施形態（２）のパッケージマークイメージ例である。

【図 1 7】

本発明の実施形態（３）市場価値をもつ情報の表示システムのパッケージマーク貼付処理の処理手順を示すフローチャートである。

【図 1 8】

本発明の実施形態（３）のポイントパッケージマークイメージ例である。

【図 1 9】

本発明の実施形態（４）情報閲覧者 1 3 0 が情報表示者 1 2 0 や情報開示者 1 1 0 を兼ねる場合の表示システムの概略構成を示す図である。

【図 2 0】

本発明の実施形態（４）のパッケージマーク表示処理の処理手順を示すフローチャートである。

【図 2 1】

本発明の実施形態（４）のパッケージマークに埋め込む情報のデータ例を示す

図である。

【図 22】

本発明の実施形態（5）モバイル端末によるデータの表示システムの概略構成を示す図である。

【符号の説明】

100：パッケージマーク管理者、101：パッケージマーク管理サーバ、102：パッケージ

マーク管理者WWWサーバ

110（1101～110n）：情報開示者、111（1111～111n）：

情報開示者端末

112（1121～112n）：情報開示者WWWサーバ

120（1201～120n）：情報表示者、121（1211～121n）：

情報表示者端末

122（1221～122n）：情報表示者WWWサーバ

130（1201～120n）：情報閲覧者、131（1211～121n）：

情報閲覧者端末

132、1501、1801：画面イメージ

140：通信網

300、400、500：バス201、301、401、501：表示装置202、302、402、502：入力装置203、303、403、503：通信網インタフェース204、304、404、504：記憶装置205、305、405、505：CPU 206、306、406、506：メモリ

207：パッケージマーク管理DBインタフェース、208：パッケージマークログ管理DBインタフェース、209：パッケージマーク管理DB、210：パッケージマークログ管理DB

307：WebページDBインタフェース、308：パッケージマーク参照プラグインDBインタフェース、309：公開鍵DBインタフェース、310：WebページDB、

311：パッケージマーク参照プラグインDB、312：公開鍵DB

407: Web ページDB インタフェース、408: Web ページDB

601: 情報開示者登録ID、602: パッケージマークID、603: 情報開示者名称、

604: 代表者氏名、605: 代表者住所、606: 代表者電話番号、607: 担当者氏名、

608: 担当者メールアドレス、609: 貼付先条件、610: パッケージマーク基本デザイン

701: パッケージマークID、702: 通算NO.、703: 作成日時、704: パッケージタイトル、705: パッケージ内容、706: リンク情報、707: 有効期限情報、708: 電子署名、709: 貼付依頼先アドレス、710: 貼付完了通知受信日時

801: パッケージマークID、802: 通算NO.、803: 情報開示者名称、804: パッケージタイトル、805: パッケージ内容、806: リンク情報、807: 情報表示者名称、808: 情報表示者URL、809: 有効期限情報、810: 管理者名称、811: 管理者URL、812: 電子署名

901: バージョン情報、902: プラグインプログラム、903: 対応マークID、

1001: パッケージマーク管理者名称、1002: 管理者メールアドレス、1003: 公開鍵、1004: 対応マークID

1301、1601、1802: パッケージマークイメージ、

1302、1602、1803: パッケージマークメニュー画面イメージ

1711: ポイントパッケージマーク管理DB、

1901: 外部記憶装置インタフェース、1902: 外部記憶装置、1903: 無線インタフェース、1904: パッケージマーク管理処理部、1905: サーバ

2101: パッケージ内容、2102: 有効期限情報、2103: 表示条件

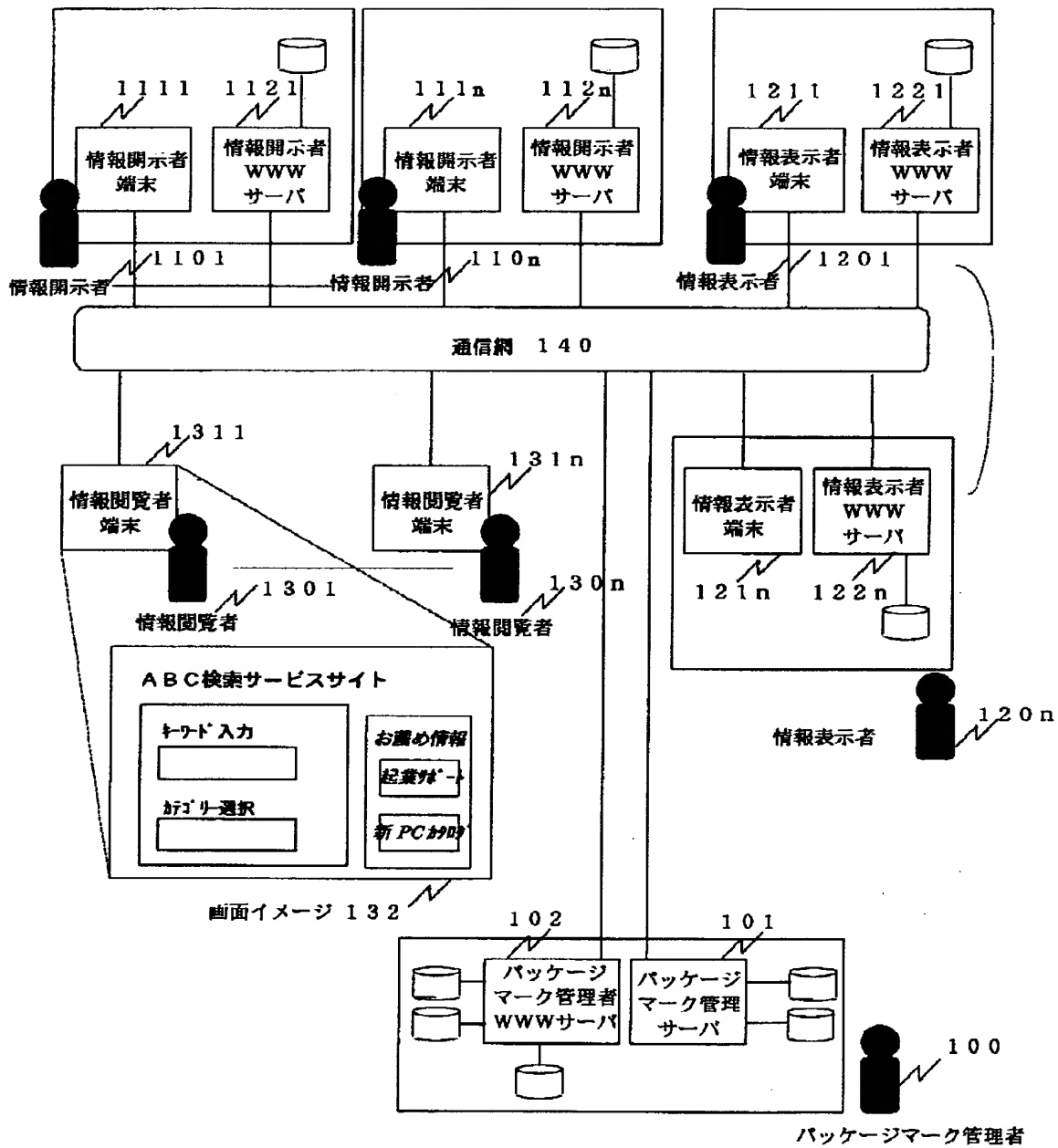
2200: 情報配信者、2201: 情報配信局、2202: パッケージマーク管理サーバ、

2203: モバイル端末

【書類名】 図面

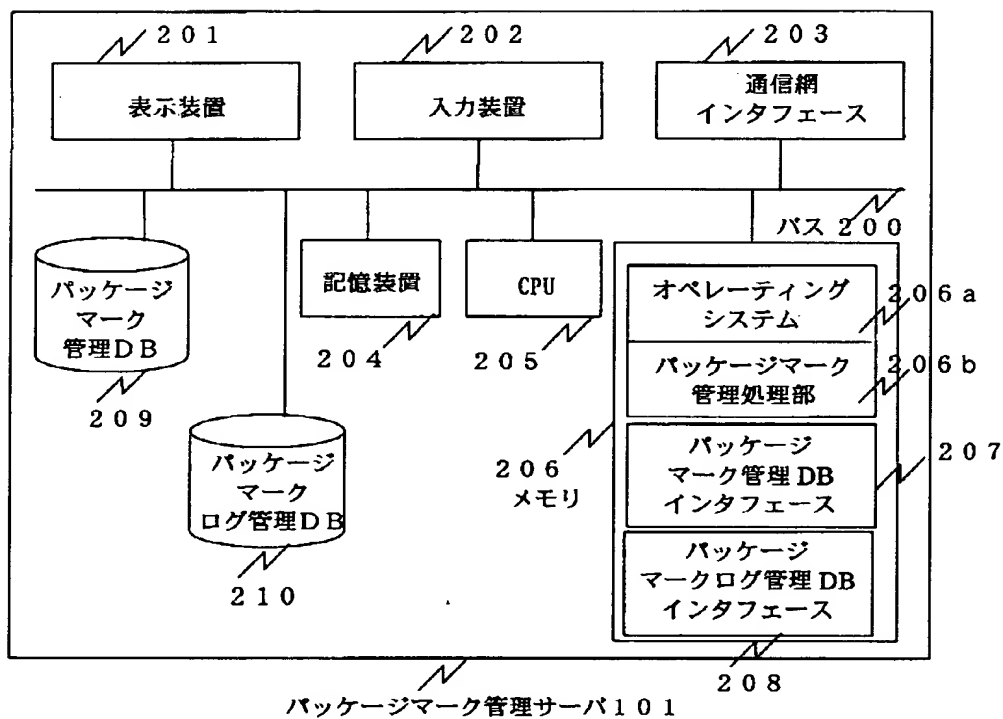
【図 1】

図 1

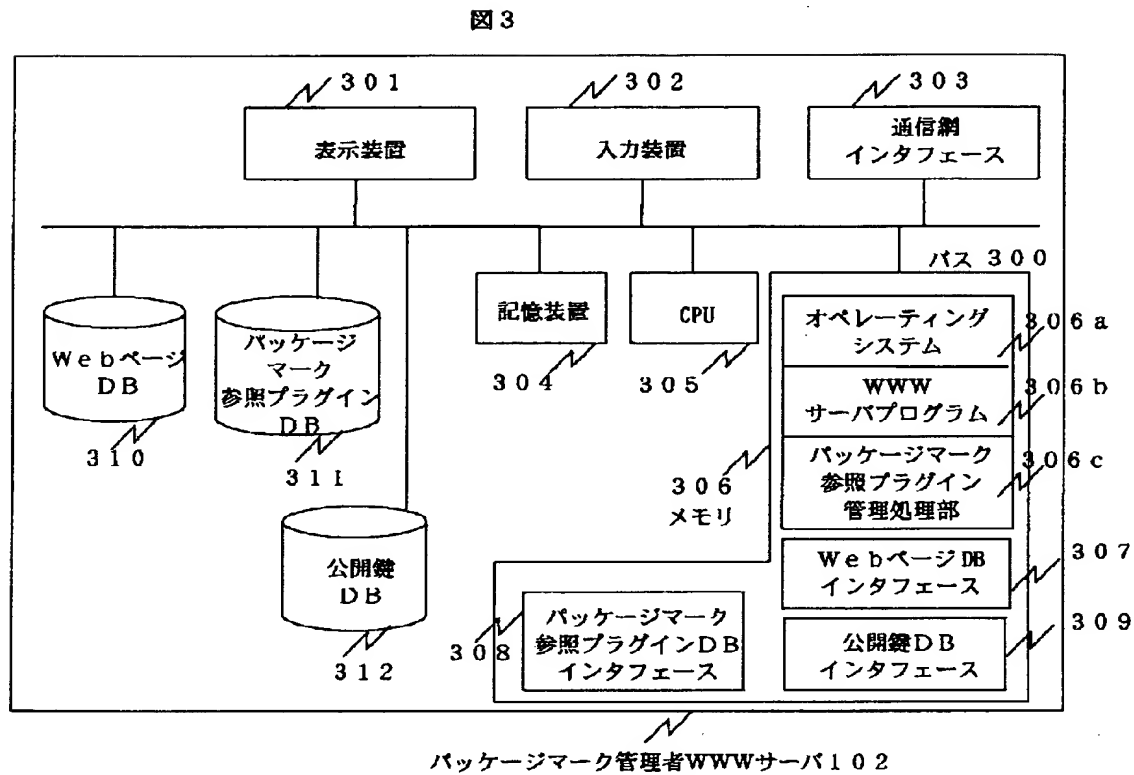


【図 2】

図 2

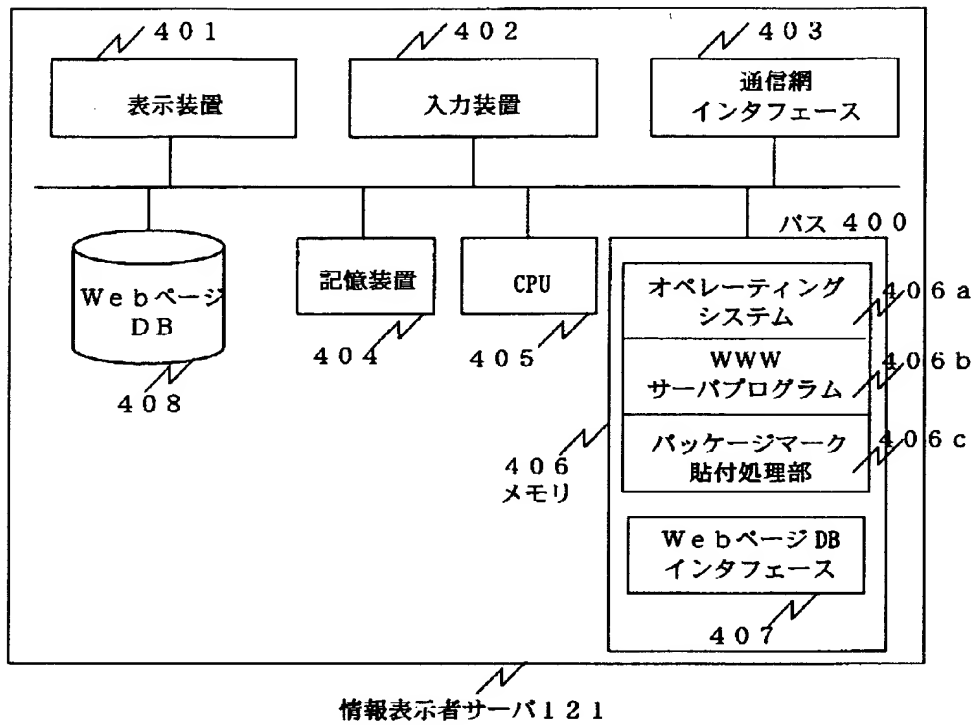


【図 3】



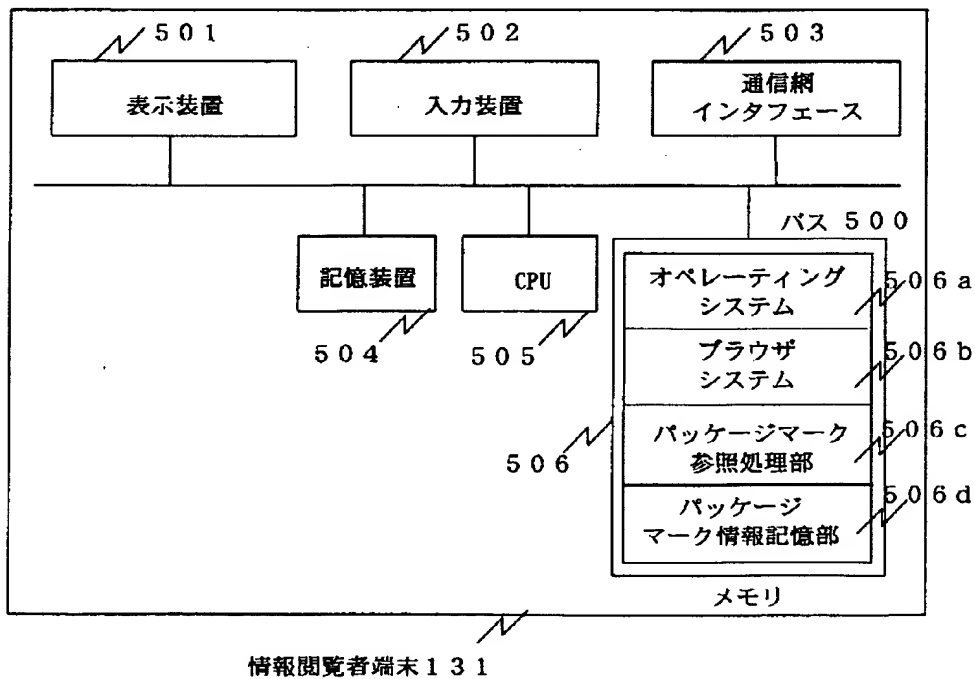
【図 4】

図 4



【図 5】

図 5



【図 6】

図 6

項目	例
情報開示者登録 I D	J0017-20000221
パッケージマーク I D	J0001-20000221
情報開示者名称	E サービス株式会社
代表者氏名	山田太郎
代表者住所	東京都江東区 * * * * 1 - 2 - 3
代表者電話番号	03 - * * * * - * * * *
担当者氏名	宣伝部 鈴木裕二
担当者メールアドレス	hsuzuki@abc.co.jp
貼付先条件	適正基準を満たしたサイト
パッケージマーク 基本デザイン	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">A B C</div>

【図 7】

図 7

項目	例
パッケージマーク I D	J0001-E0027-20000221
通算 NO.	00000011
作成日時	2000/01/09
パッケージタイトル	起業家・トサ・ビ・ス開始
パッケージ内容	A B C 株式会社は起業家・トサ・ビ・スを開始しました。これは――
リンク情報	詳細情報：http://www.eee.co.jp/news/0109/
有効期限情報	2000/01/11～2000/3/31
電子署名	p z f k * * * * * * * * * * * * * * *
貼付依頼先アドレス	aaa@aaa.co.jp
貼付完了通知受信日時	2000/01/23

【図 8】

図 8

項目	例
パッケージマーク ID	J 0 0 0 1 - 0 0 0 0 2 2 1
通算 NO.	0 0 0 0 0 0 1 1
情報開示者名称	E サービス株式会社
パッケージタイトル	起業サポート開始
パッケージ内容	A B C 株式会社は起業サポ-トサービスを開始しました。これは――
リンク情報	詳細情報: http://www.eee.co.jp/news/0109/
情報表示者名称	A B C 検索サイト
情報表示者 URL	http://www.abc.co.jp/top
有効期限情報	2000.01.11~2000.3.31
管理者名称	(株) パッケージマークサービス会社
管理者 URL	http://www.pmarks.co.jp/cs/
電子署名	p z f k * * * * * * * * * * * * * * * *

【図 9】

図 9

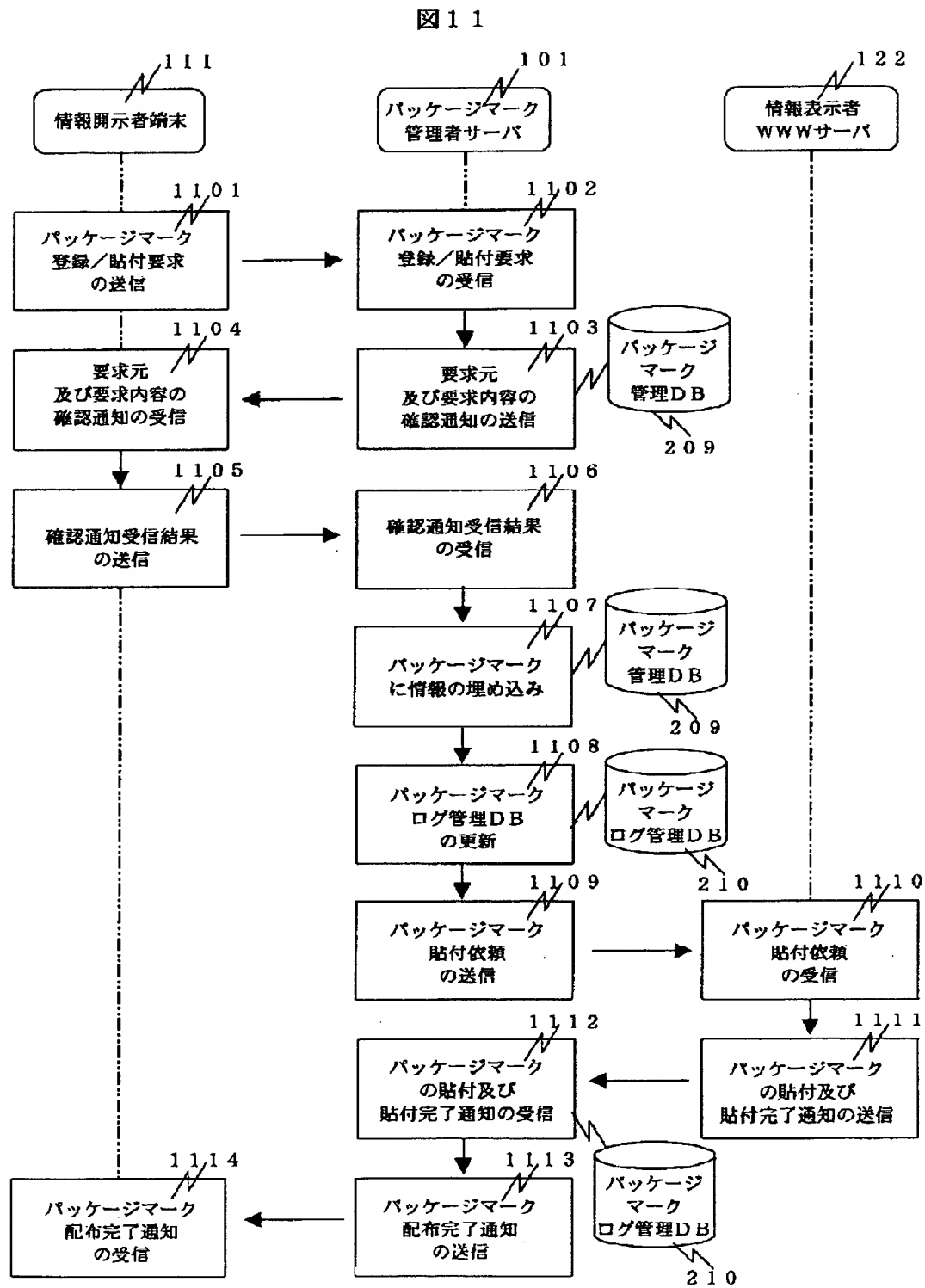
項目	例
バージョン情報	Ver.01/2000/01
プラグインプログラム	J0001.exe
対応マーク ID	J0001

【図 10】

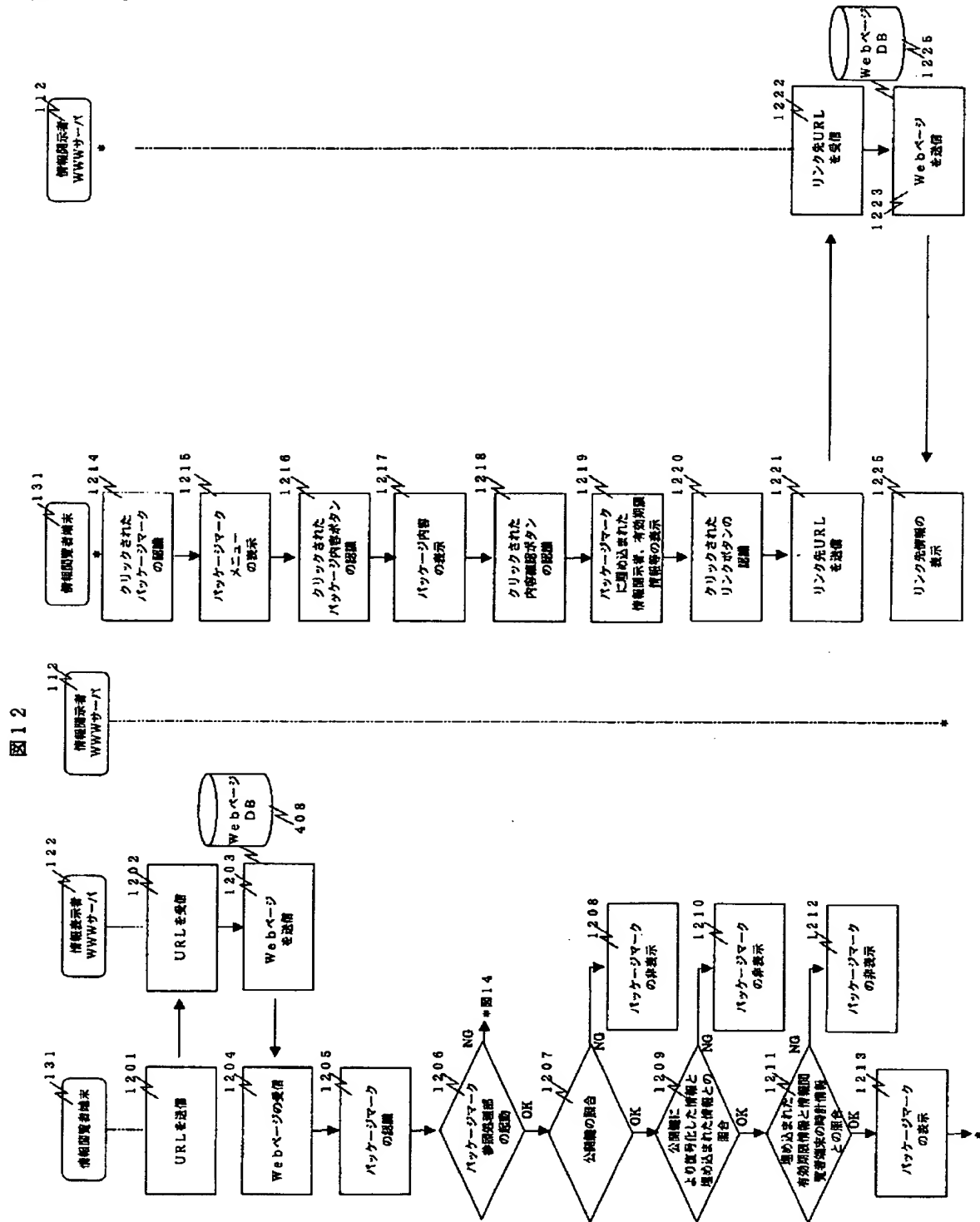
図 10

項目	例
パッケージマーク管理者 名称	(株) パッケージマークサービス会社
管理者メールアドレス	ppp@pmarks.co.jp
公開鍵	p f * * * * * * * * * * * * * * * *
対応マーク ID	J0001

【図 11】

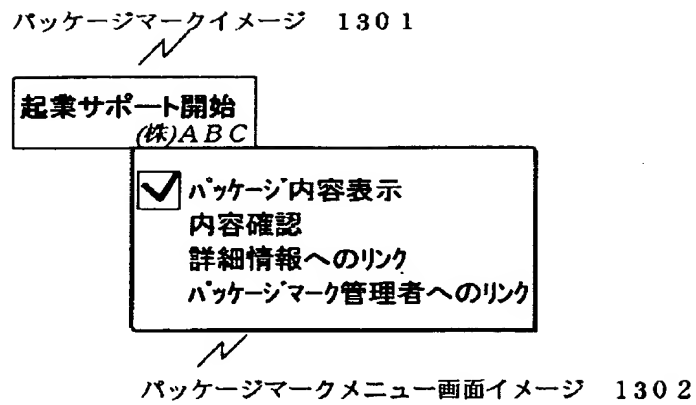


【図 12】



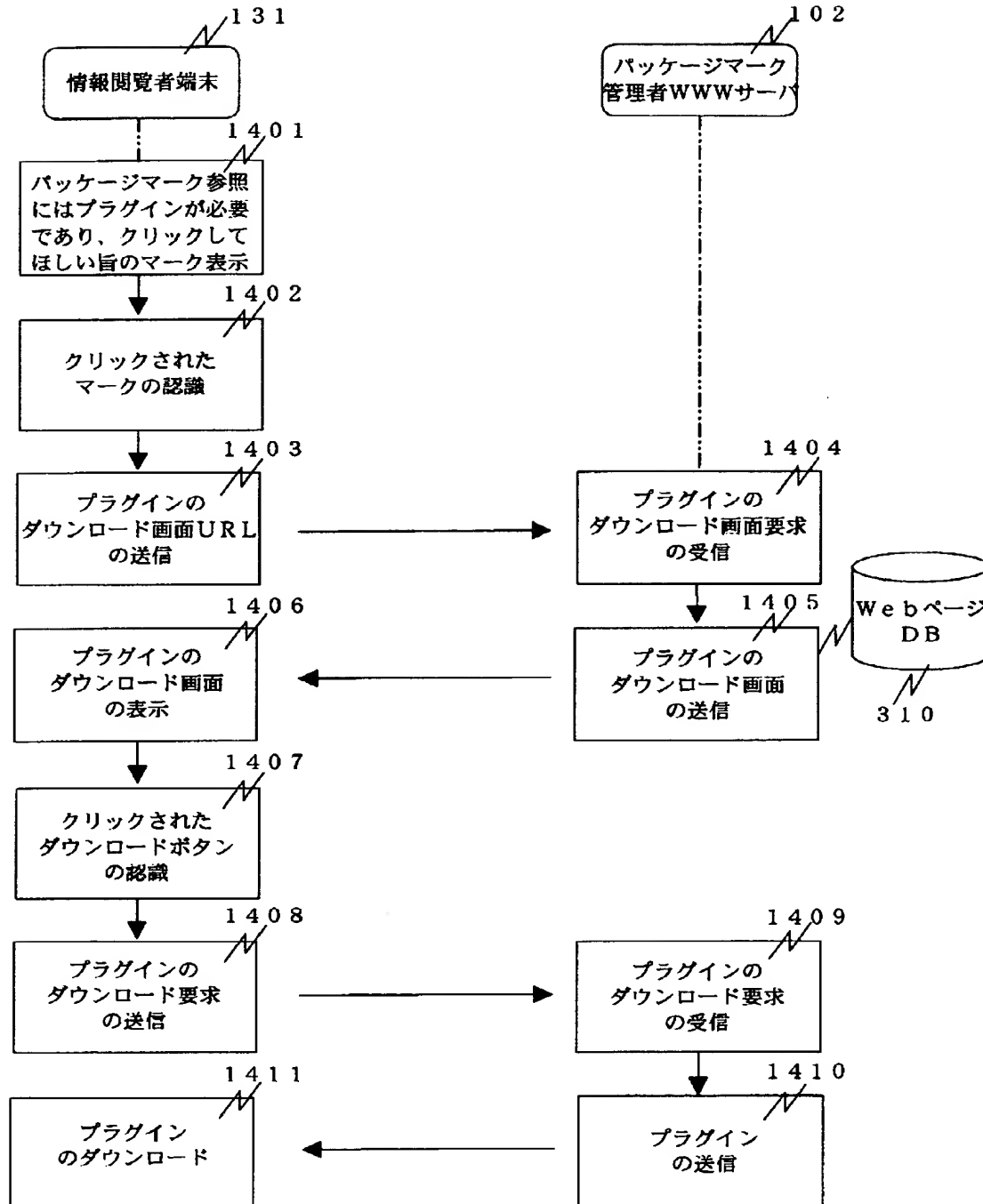
【図 1 3.】

図 1 3



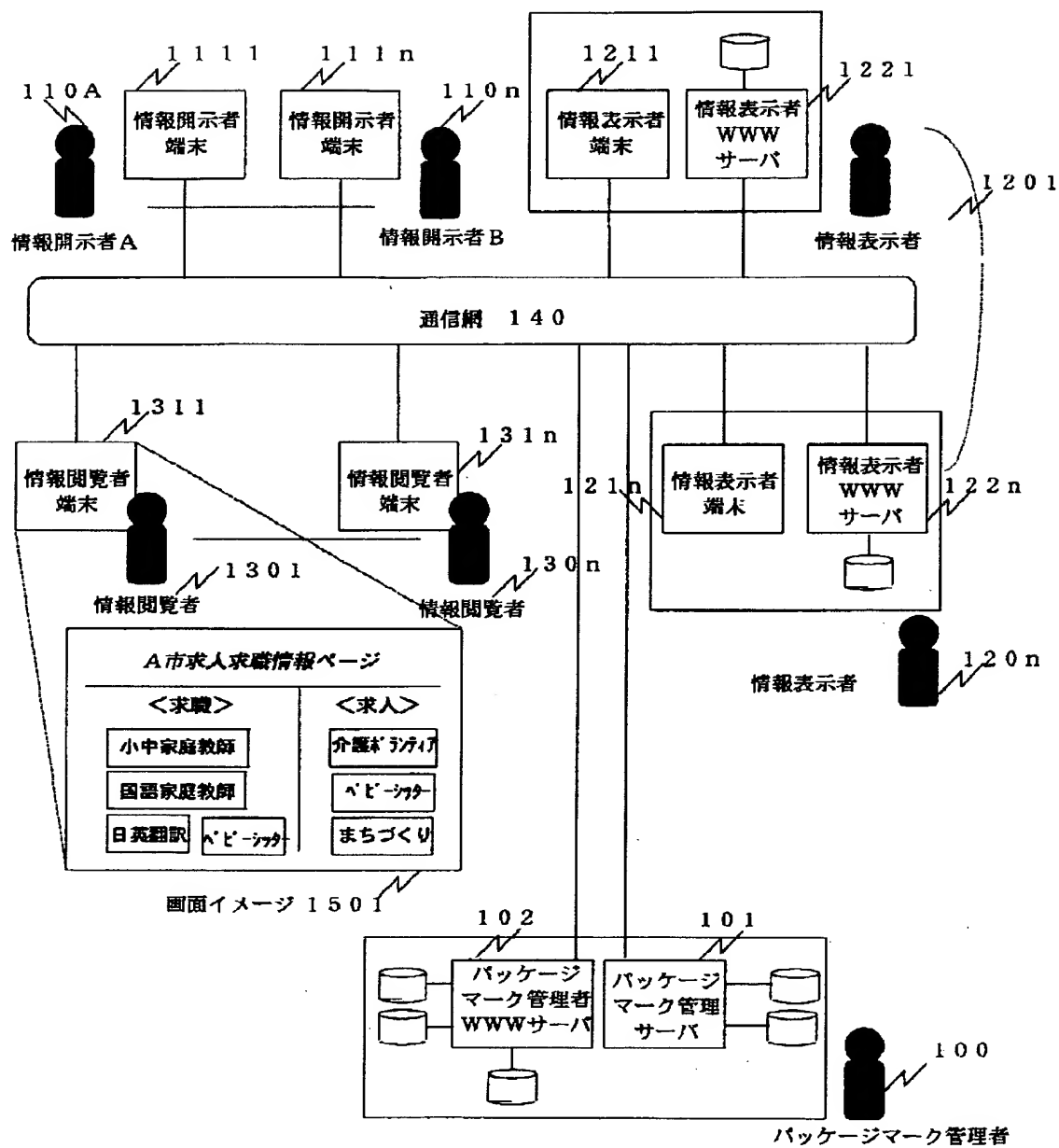
【図14】

図14



【図 15】

図 15



【図 16】

図 16

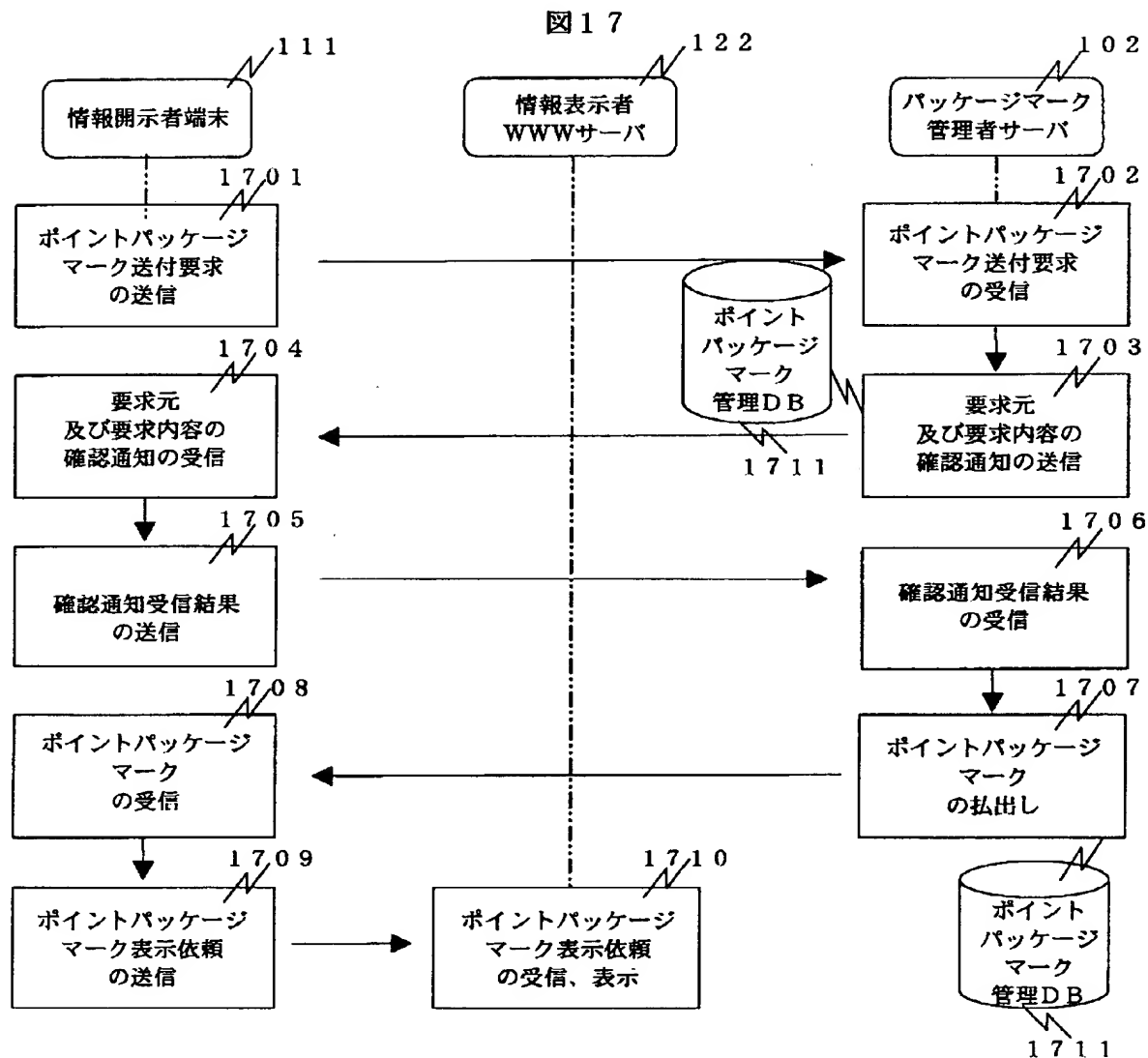
パッケージマークイメージ 1601

国語家庭教師

☒ パッケージ内容表示
内容確認
連絡先
パッケージマーク管理者へのリンク

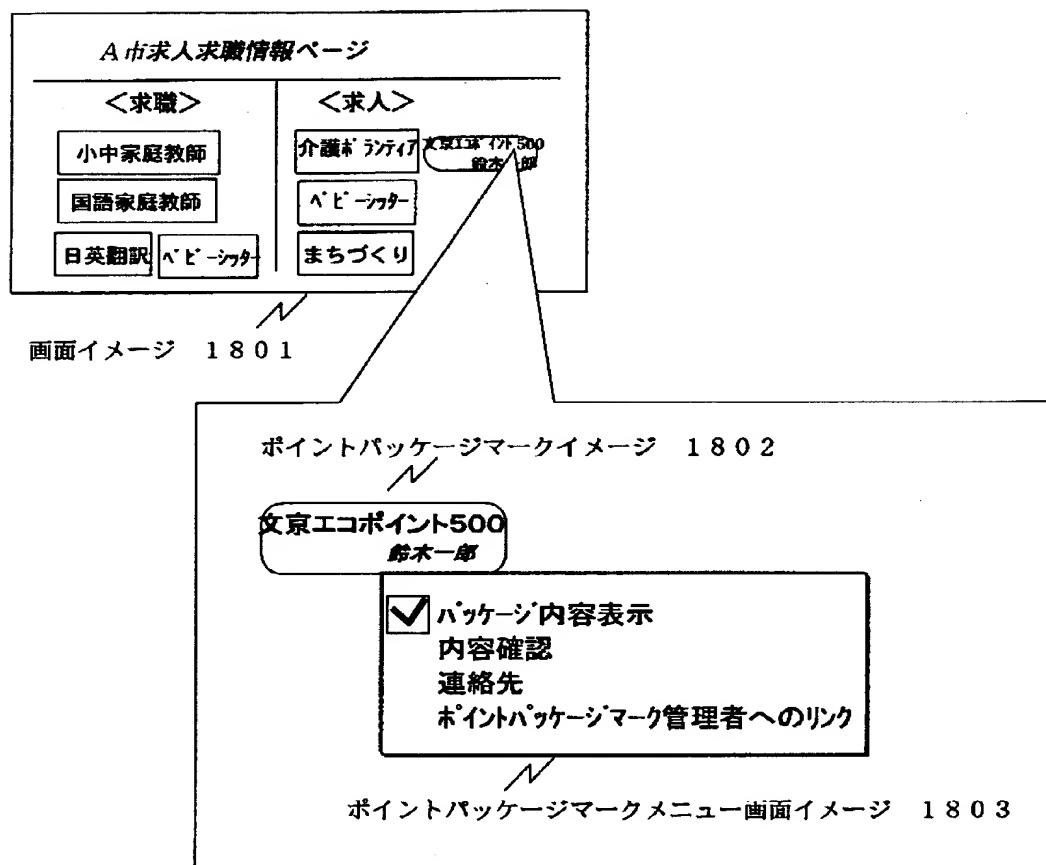
パッケージマークメニュー画面イメージ 1602

【図 17】



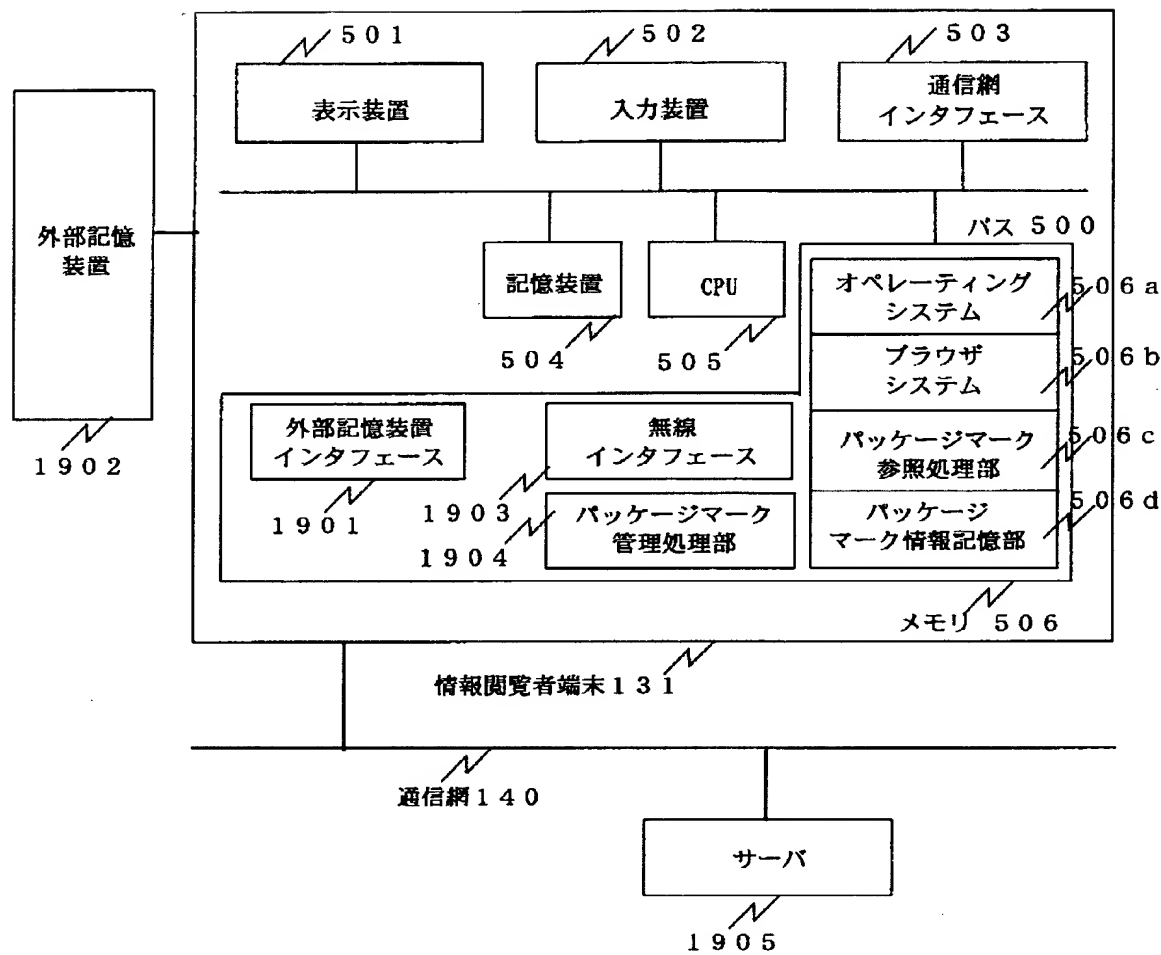
【図18】

図18



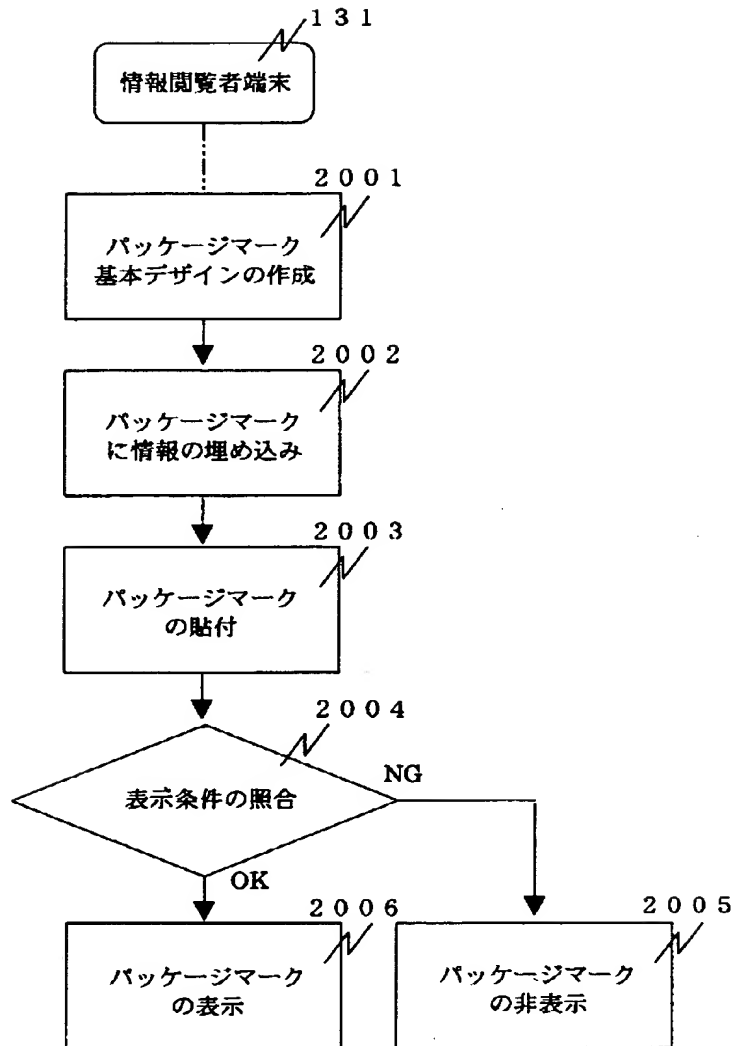
【図 19】

図 19



【図 2 0】

図 2 0



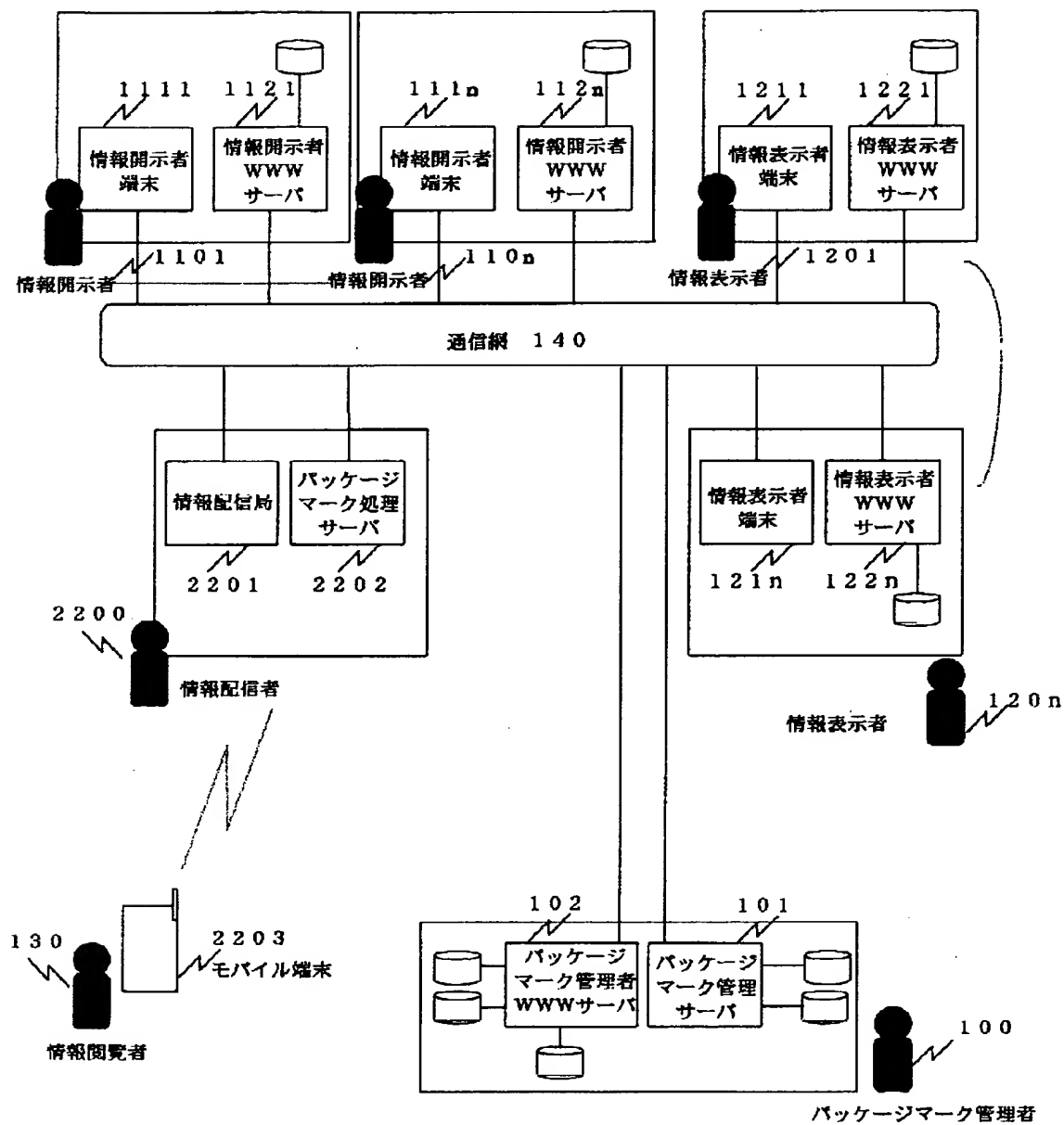
【図 2 0】

図 2 1

項目	例
2101 パッケージ内容	**セミナーの案内
2102 申込み先は	——
2103 有効期限情報	2000.3.31
表示条件	有効期限の2週間前～有効期限最終日

【図 22】

図 22



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

データの信頼性確認手段や表示制御手段を備えた、データの表示方法及びシステムを実現する。

【解決手段】

データが埋め込まれており、前記データの内容を象徴するような要素をもち、信頼性確認手段や表示制御手段を備えたマルチメディアデータを用いることにより、前記マルチメディアデータ、あるいは前記データの信頼性の確認をし、前記マルチメディアデータの表示、あるいは前記データ内容の表示を制御することができる。

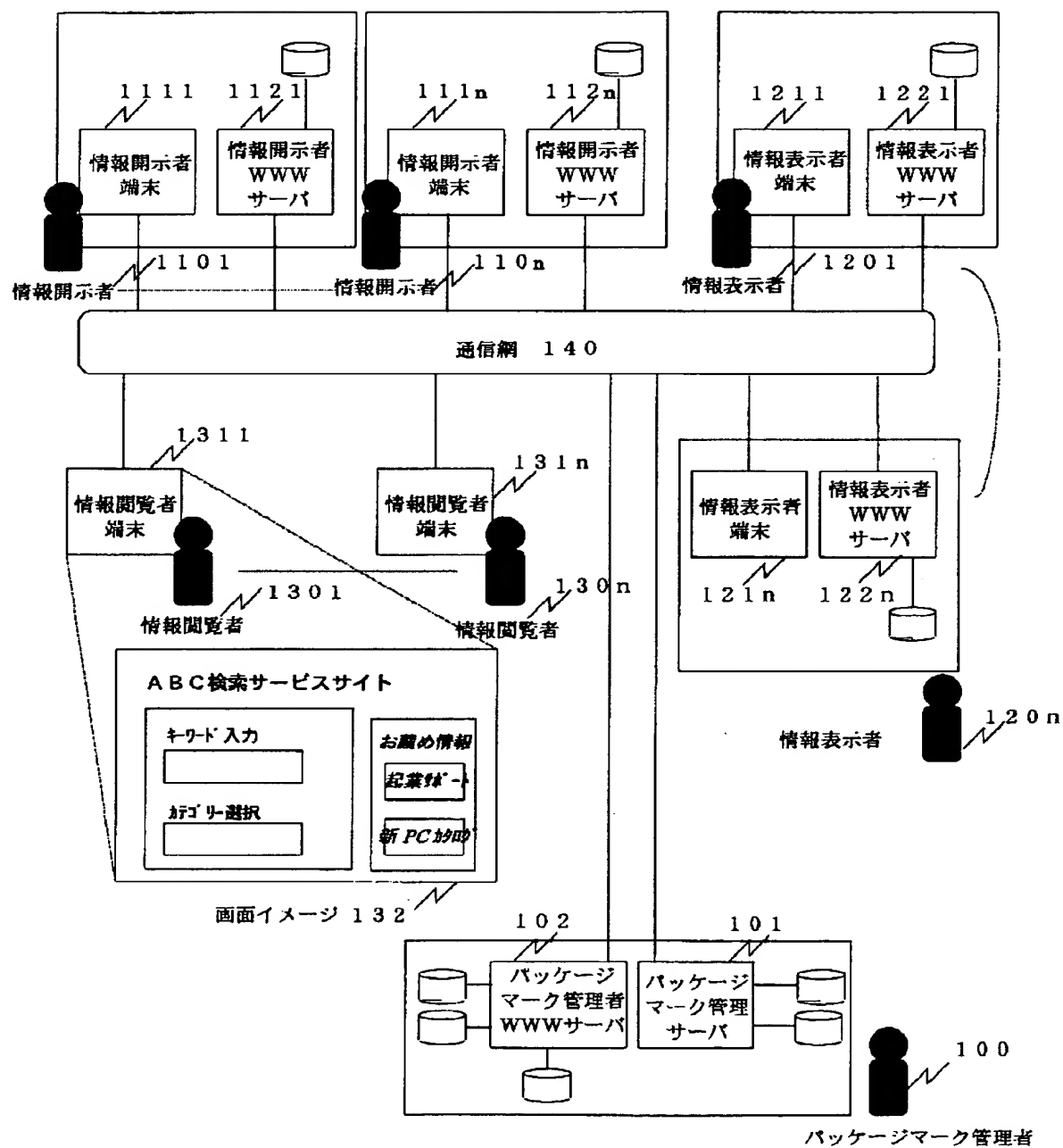
【選択図】 図 1

【書類名】 手続補正書
【提出日】 平成12年 8月 1日
【あて先】 特許庁長官 殿
【事件の表示】
 【出願番号】 特願2000-205560
【補正をする者】
 【識別番号】 000005108
 【氏名又は名称】 株式会社日立製作所
【代理人】
 【識別番号】 100075096
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 作田 康夫
【発送番号】 048082
【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 図面
 【補正対象項目名】 全図
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】 1

【書類名】 図面

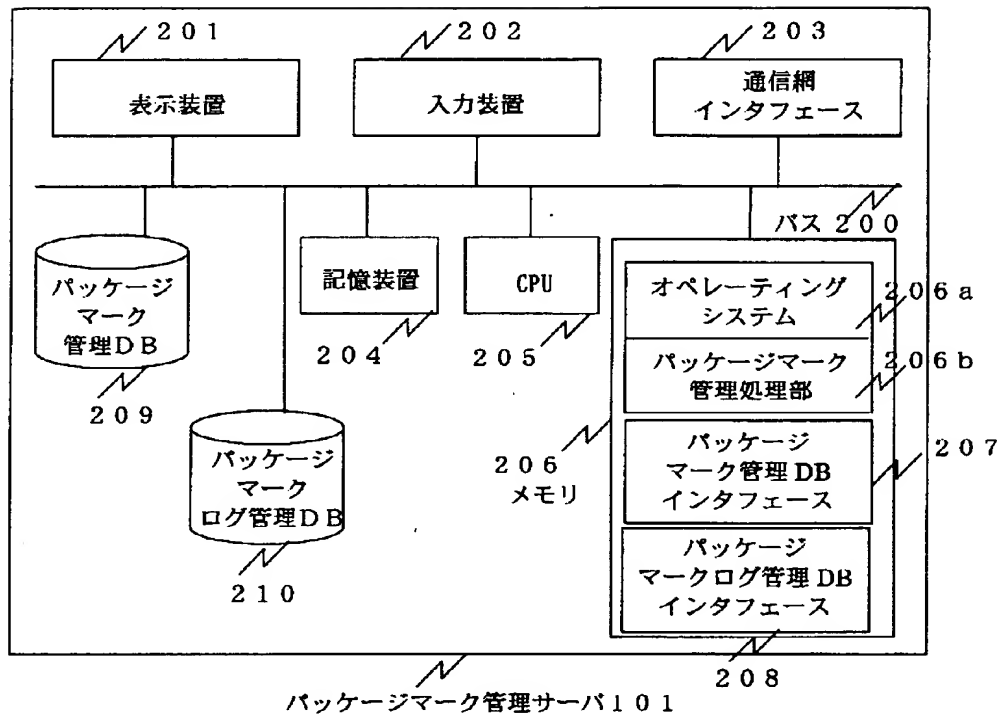
【図 1】

図1



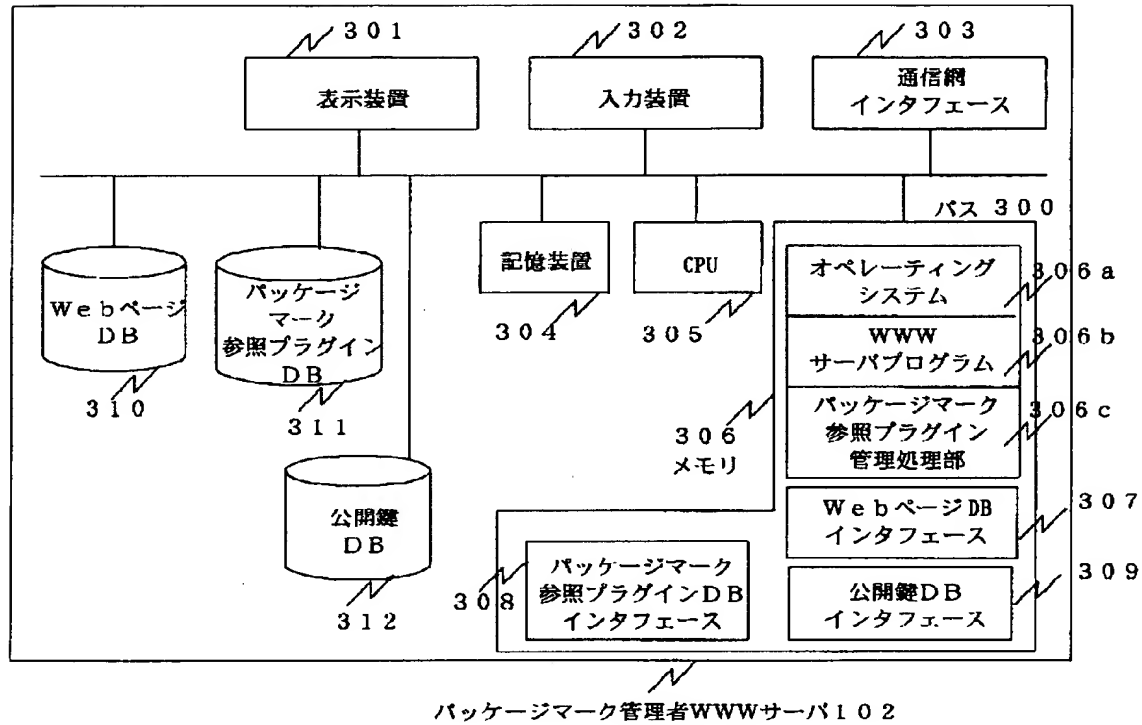
【図 2】

図 2



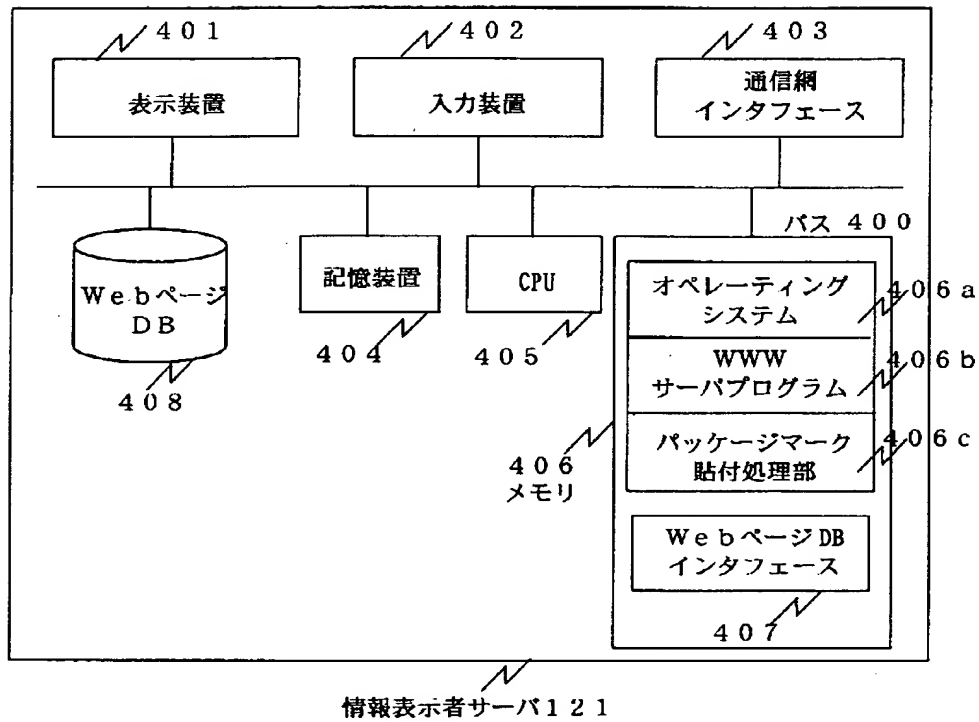
【図 3】

図 3



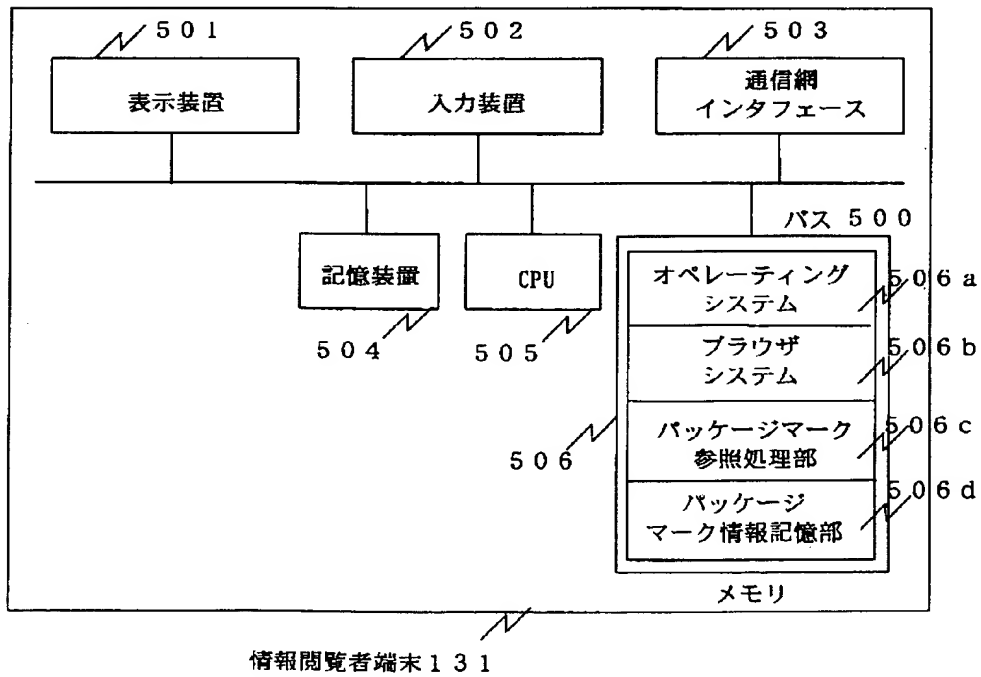
【図 4】

図 4




【図 5】

図 5



【図 6】

図 6

項目	例
情報開示者登録 I D	J0017-20000221
パッケージマーク I D	J0001-20000221
情報開示者名称	E サービス株式会社
代表者氏名	山田太郎
代表者住所	東京都江東区 * * * * 1 - 2 - 3
代表者電話番号	03 - * * * * - * * * *
担当者氏名	宣伝部 鈴木裕二
担当者メールアドレス	hsuzuki@abc.co.jp
貼付先条件	適正基準を満たしたサイト
パッケージマーク 基本デザイン	

【図 7】

図 7

項目	例
パッケージマーク I D	J0001-E0027-20000221
通算 NO.	00000011
作成日時	2000/01/09
パッケージタイトル	起業家・トサ・ビス開始
パッケージ内容	A B C 株式会社は起業家・トサ・ビスを開始しました。これは――
リンク情報	詳細情報 : http://www.eee.co.jp/news/0109/
有効期限情報	2000/01/11 ~ 2000/3/31
電子署名	p z f k * * * * * * * * * * * * * * *
貼付依頼先アドレス	aaa@aaa.co.jp
貼付完了通知受信日時	2000/01/23

【図 8】

図 8

項目	例
パッケージマーク ID	J 0 0 0 1 - 0 0 0 0 2 2 1
通算 NO.	0 0 0 0 0 0 1 1
情報開示者名称	E サービス株式会社
パッケージタイトル	起業サポート開始
パッケージ内容	A B C 株式会社は起業サポートサービスを開始しました。これは――
リンク情報	詳細情報：http://www.eee.co.jp/news/0109/
情報表示者名称	A B C 検索サイト
情報表示者 URL	http://www.abc.co.jp/top
有効期限情報	2000.01.11～2000.3.31
管理者名称	(株) パッケージマークサービス会社
管理者 URL	http://www.pmarks.co.jp/cs/
電子署名	p z f k * * * * * * * * * * * * * * * *

【図 9】

図 9

項目	例
バージョン情報	Ver.01/2000/01
プラグインプログラム	J0001.exe
対応マーク ID	J0001

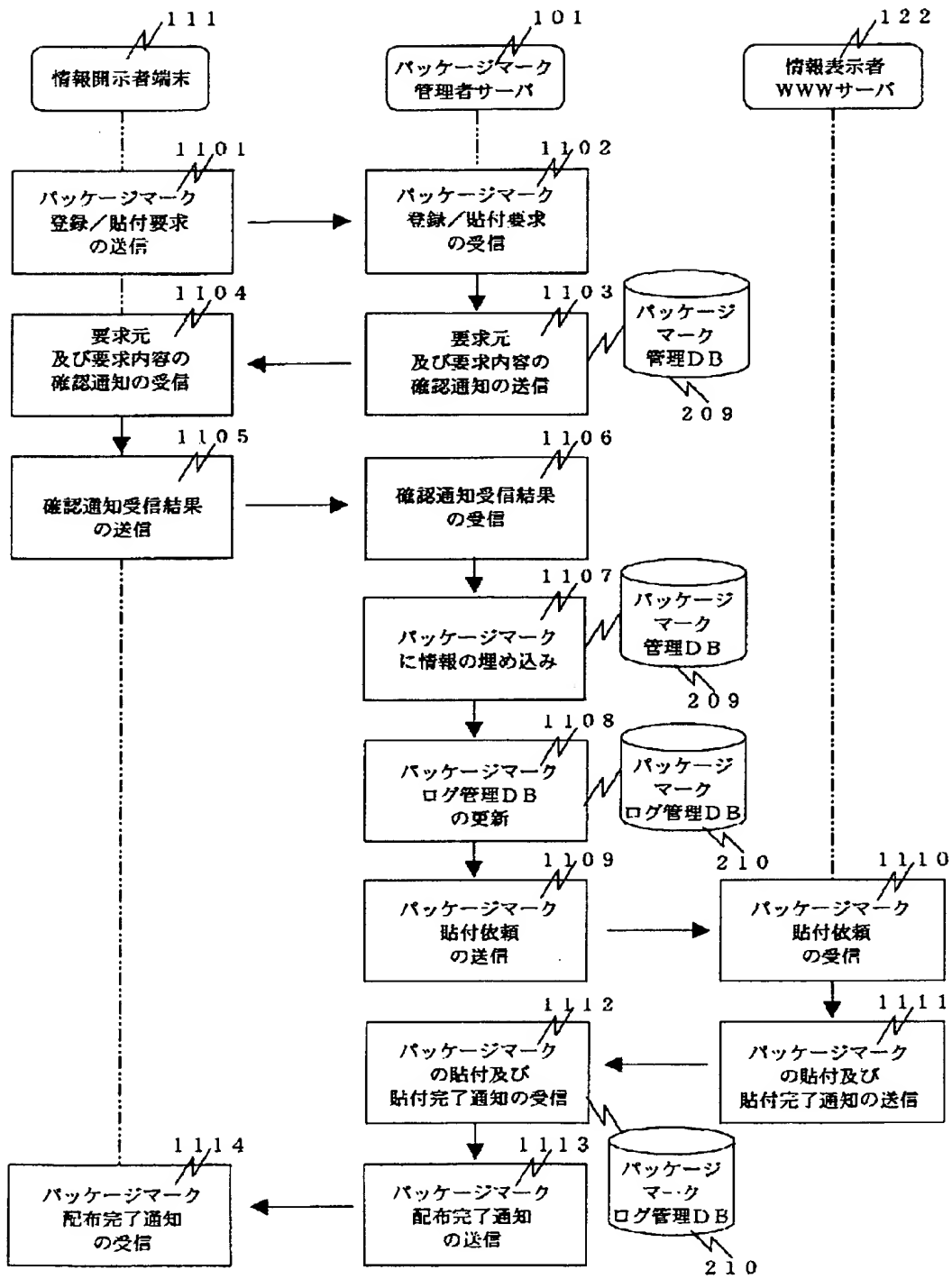
【図 10】

図 10

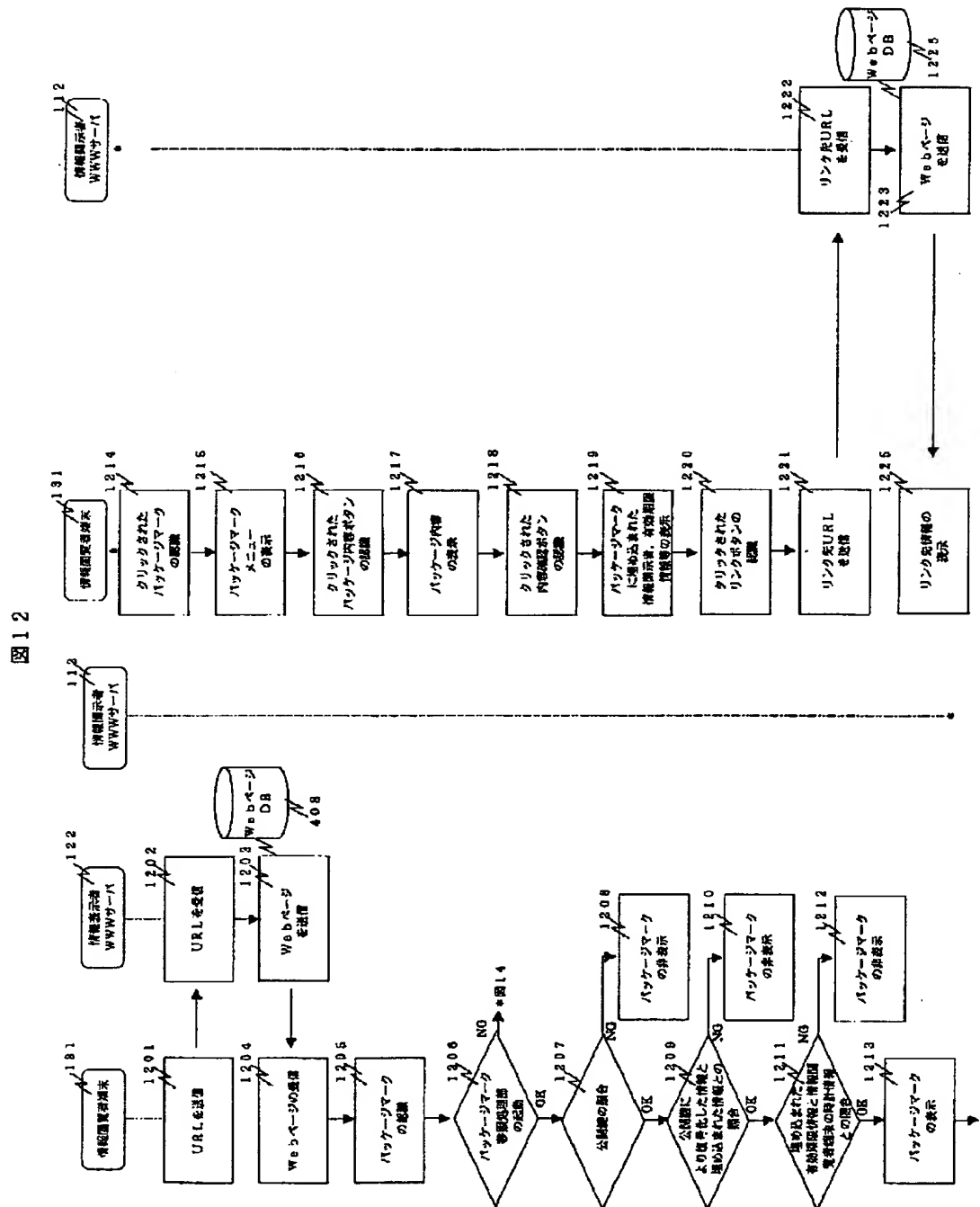
項目	例
パッケージマーク管理者名称	(株) パッケージマークサービス会社
管理者メールアドレス	ppp@ pmarks.co.jp
公開鍵	p f * * * * * * * * * * * * * * * *
対応マーク ID	J0001

【図 11】

図 11



【图 1 2】



【図 13】

図 13

パッケージマークイメージ 1301

The diagram illustrates a user interface for a package mark menu. It consists of two main rectangular components. The upper component is a button labeled "起業サポート開始" (Start Business Support) with "(株)ABC" (ABC Co., Ltd.) written below it. A diagonal line points from the text "パッケージマークイメージ 1301" above to this button. The lower component is a menu box containing a checked checkbox followed by the text "パッケージ内容表示" (Display Package Content), "内容確認" (Content Confirmation), "詳細情報へのリンク" (Link to Detailed Information), and "パッケージマーク管理者へのリンク" (Link to Package Mark Manager). A diagonal line points from the text "パッケージマークメニュー画面イメージ 1302" below to this menu box.

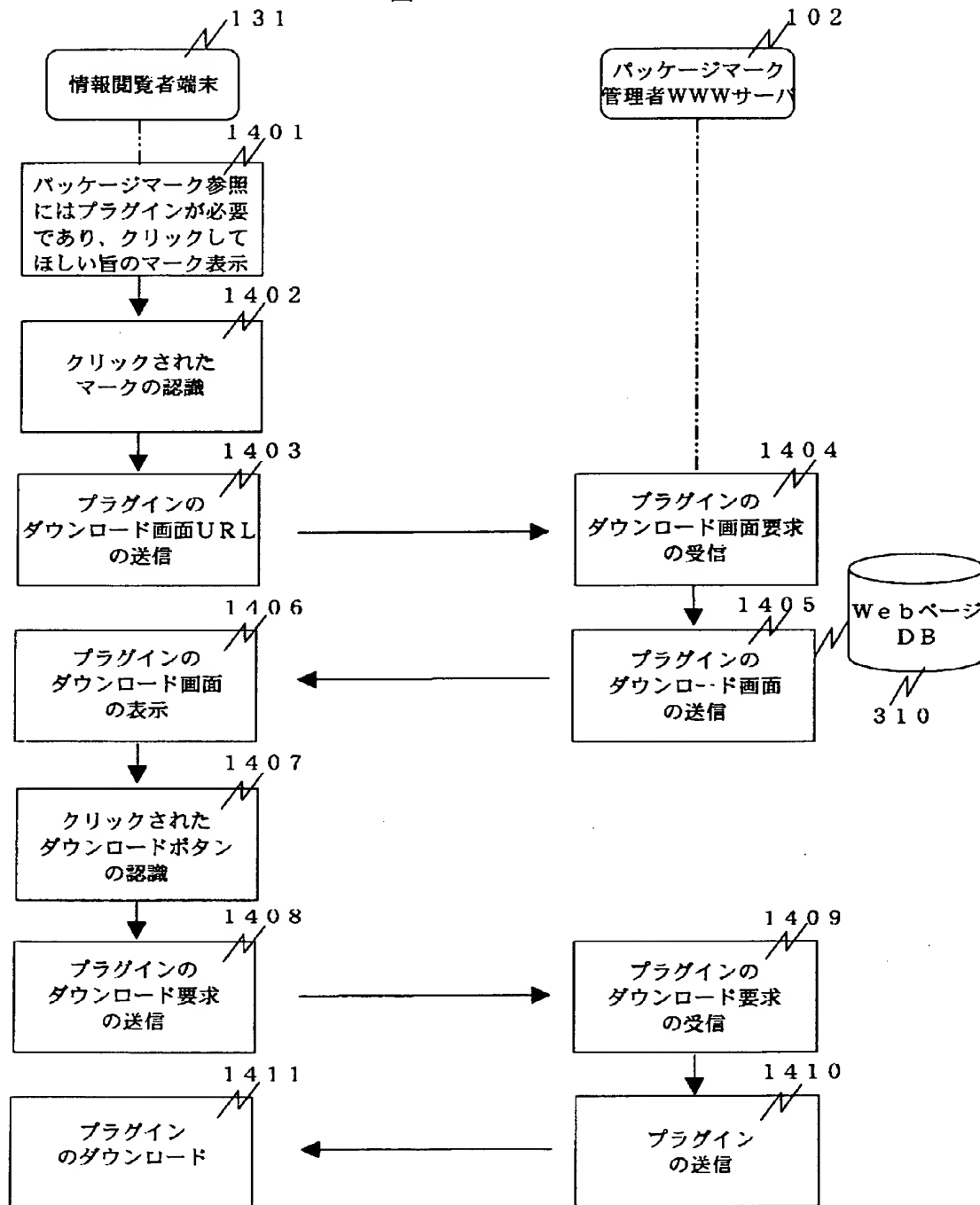
起業サポート開始
(株)ABC

☒ パッケージ内容表示
内容確認
詳細情報へのリンク
パッケージマーク管理者へのリンク

パッケージマークメニュー画面イメージ 1302

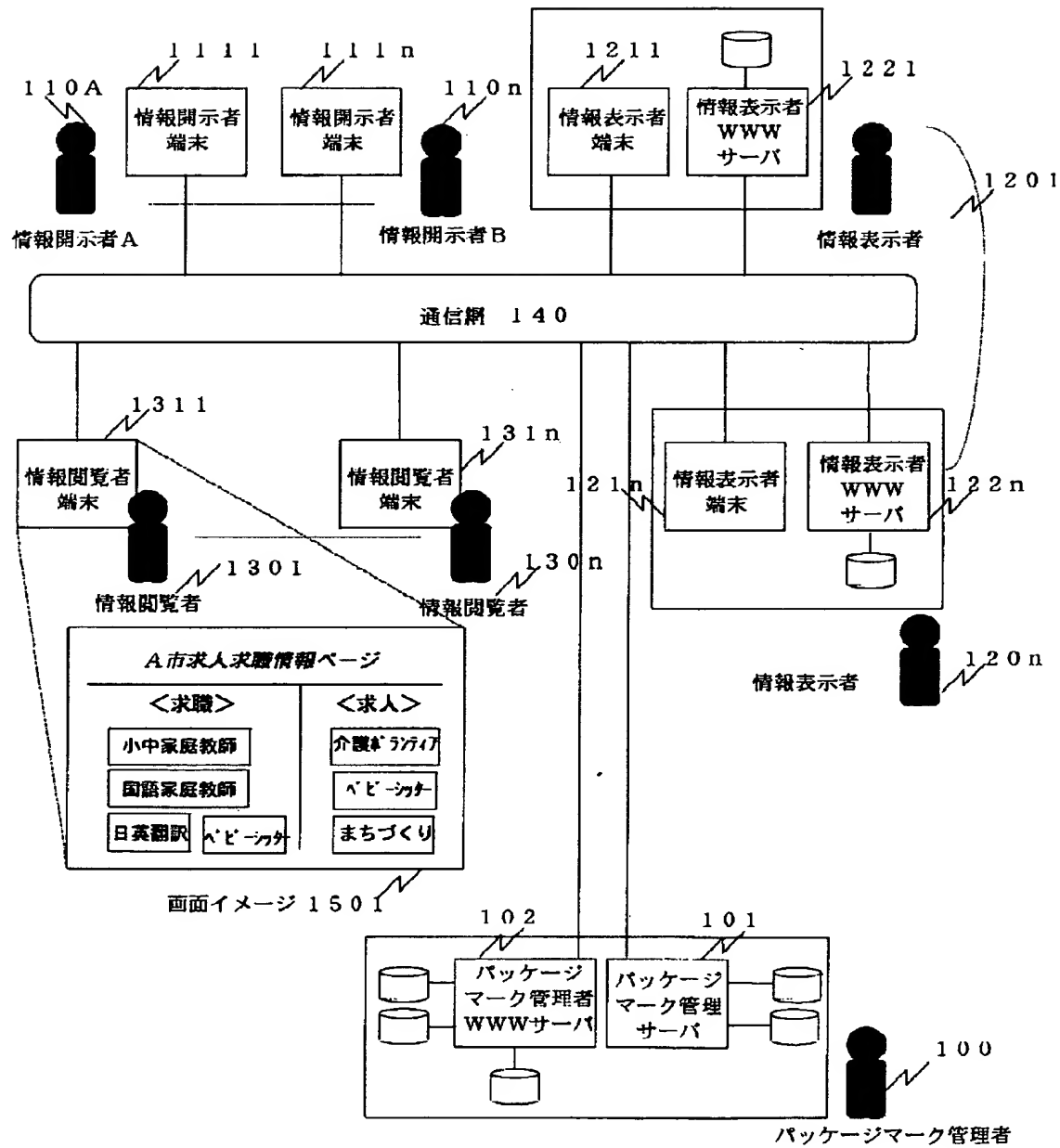
【図 14】

図 14



【図 15】

図 15



【図 16】

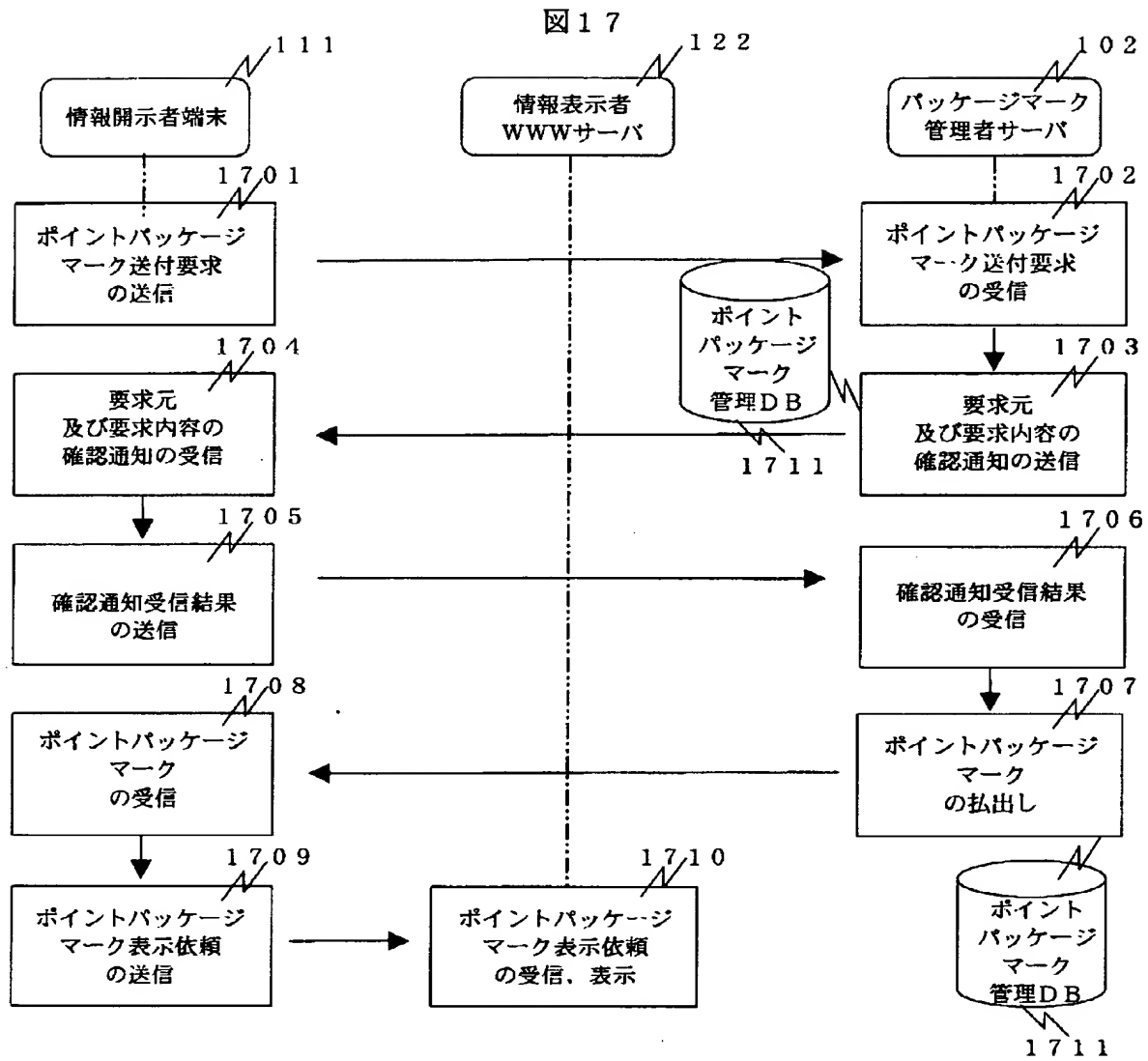
図 16

パッケージマークイメージ 1601

国語家庭教師	
<input checked="" type="checkbox"/>	パッケージ内容表示 内容確認 連絡先 パッケージマーク管理者へのリンク

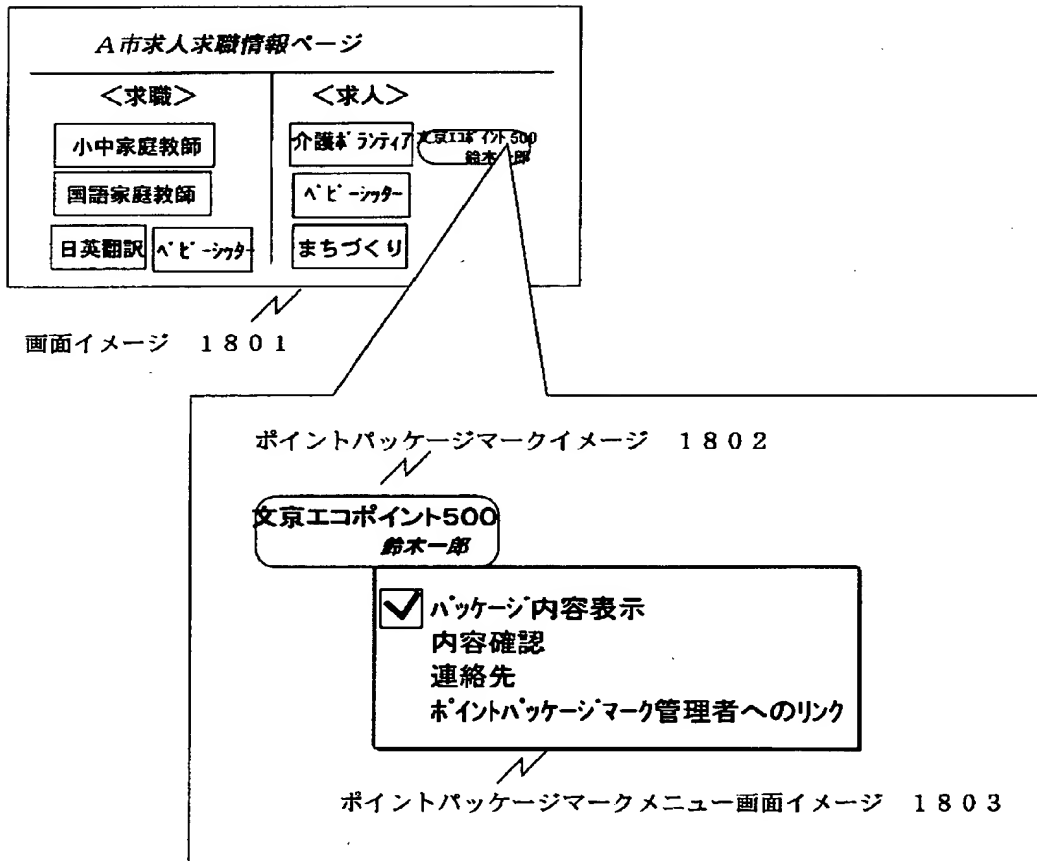
パッケージマークメニュー画面イメージ 1602

【図 17】



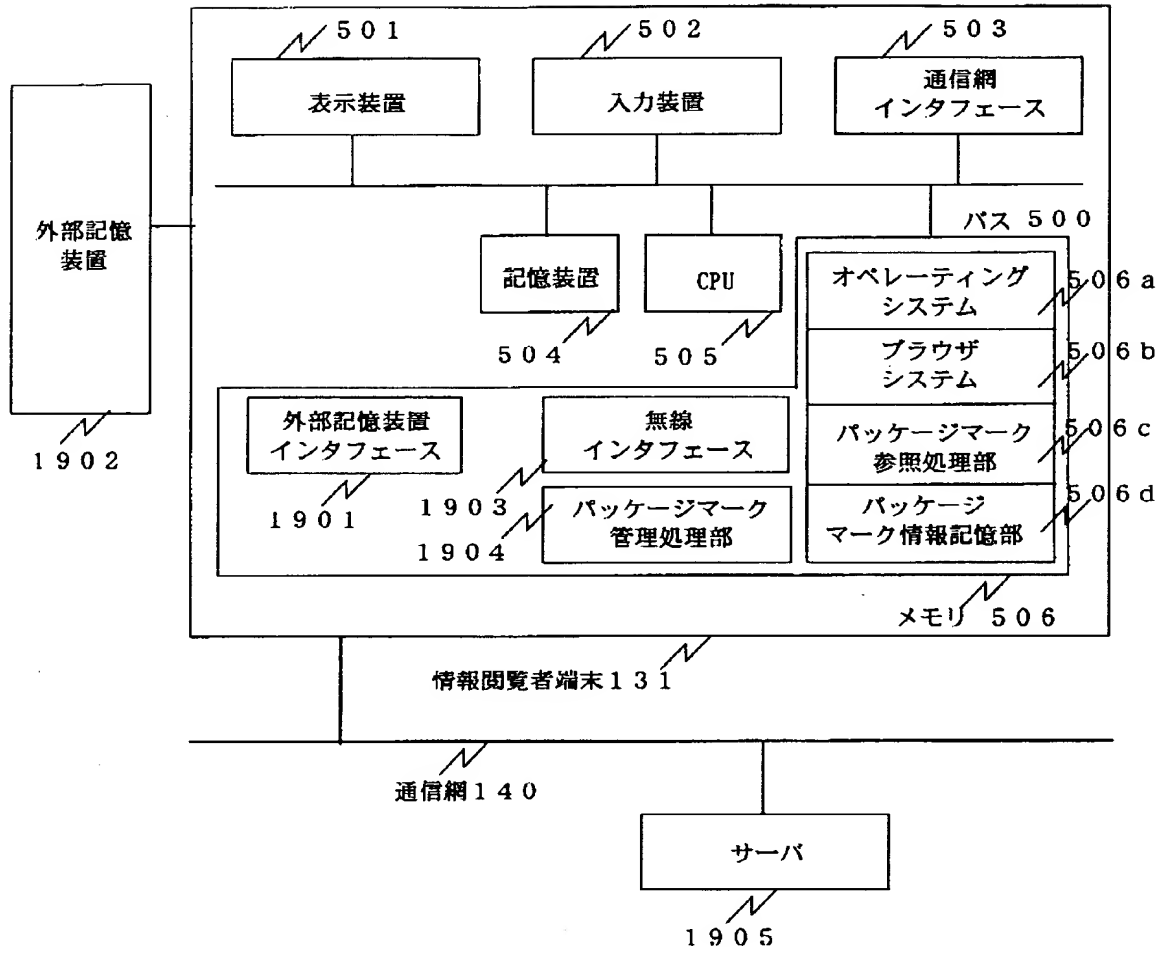
【図18】

図18



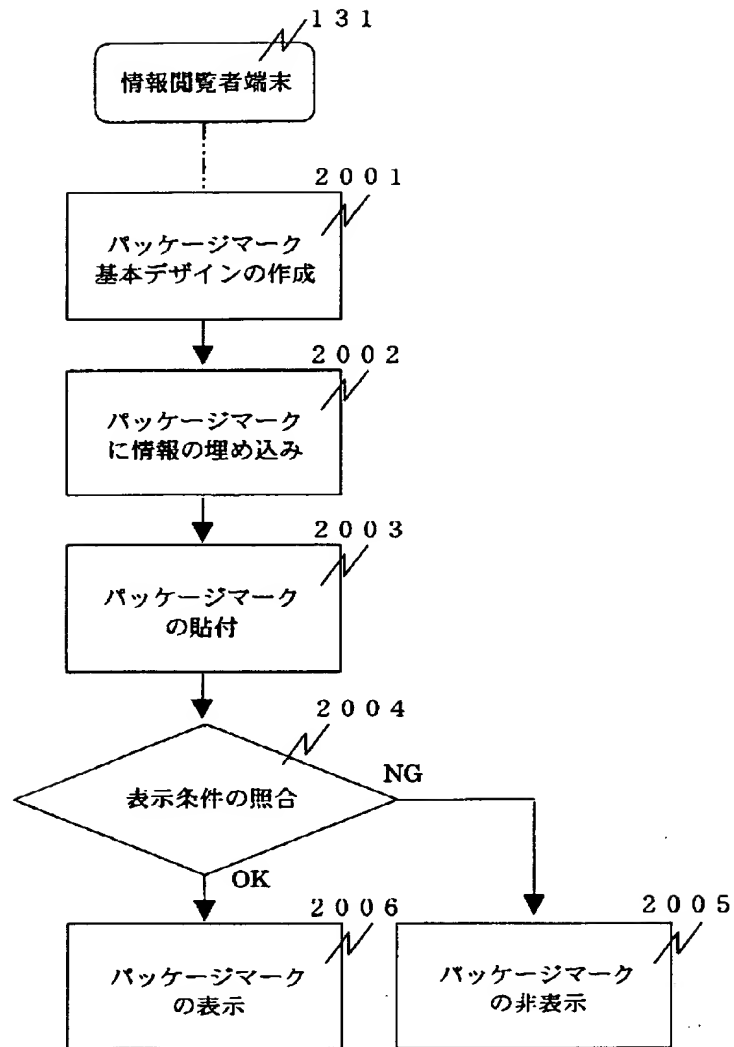
【図 19】

図 19



【図 20】

図 20



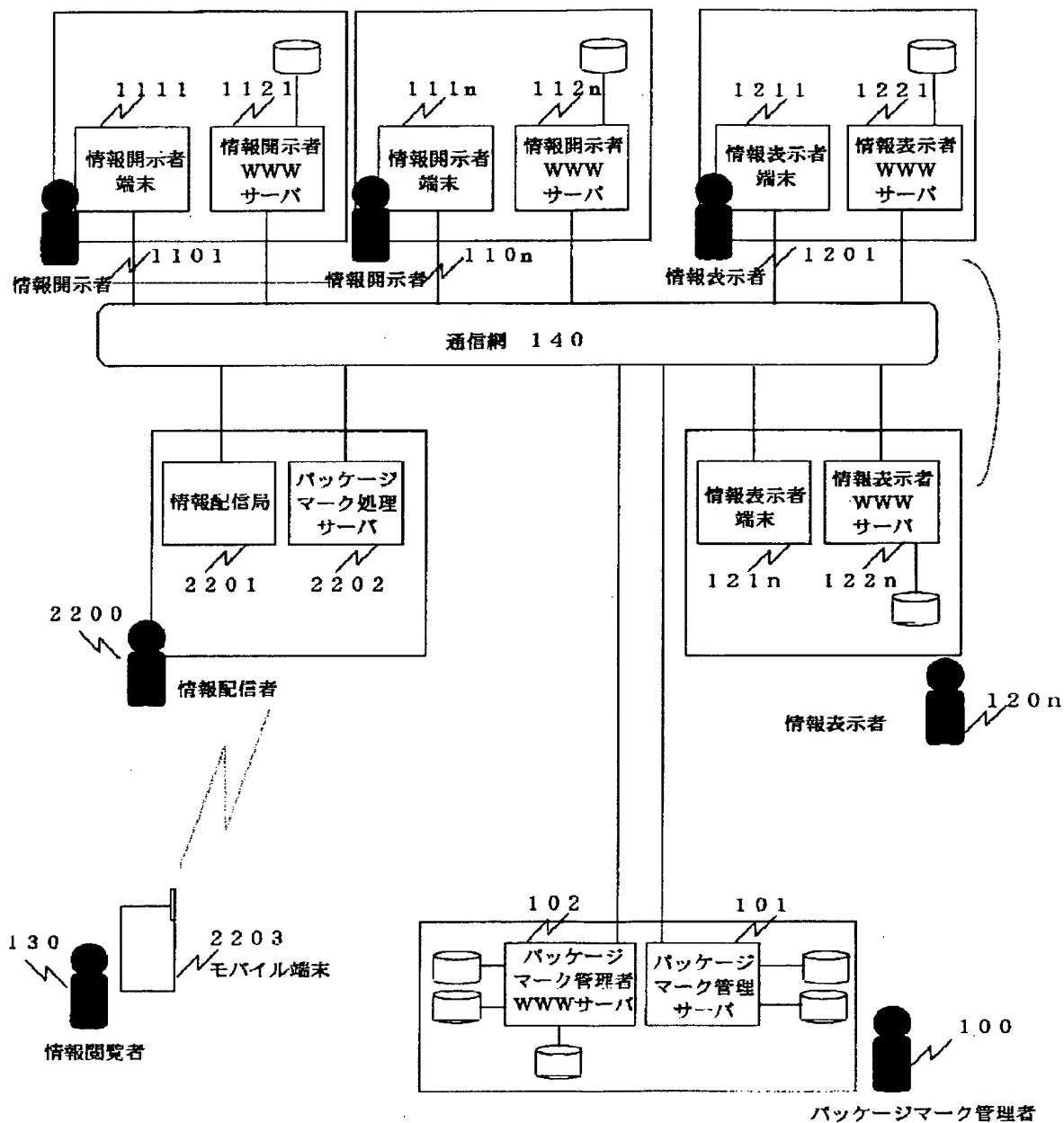
【図 21】

図 21

項目	例
2101 パッケージ内容	**セミナーの案内
2102 申込み先は	-----
2103 有効期限情報	2000.3.31
表示条件	有効期限の2週間前～有効期限最終日

【図 22】

図 22



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005108]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
氏 名 株式会社日立製作所